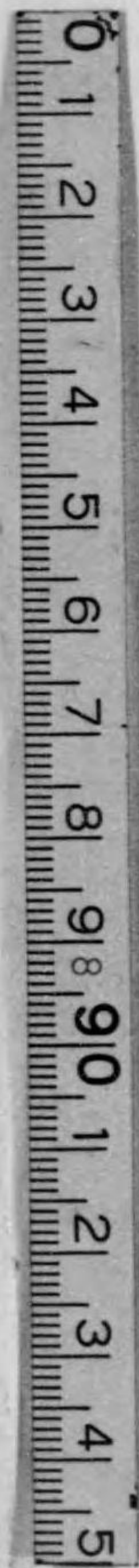


14.21

307



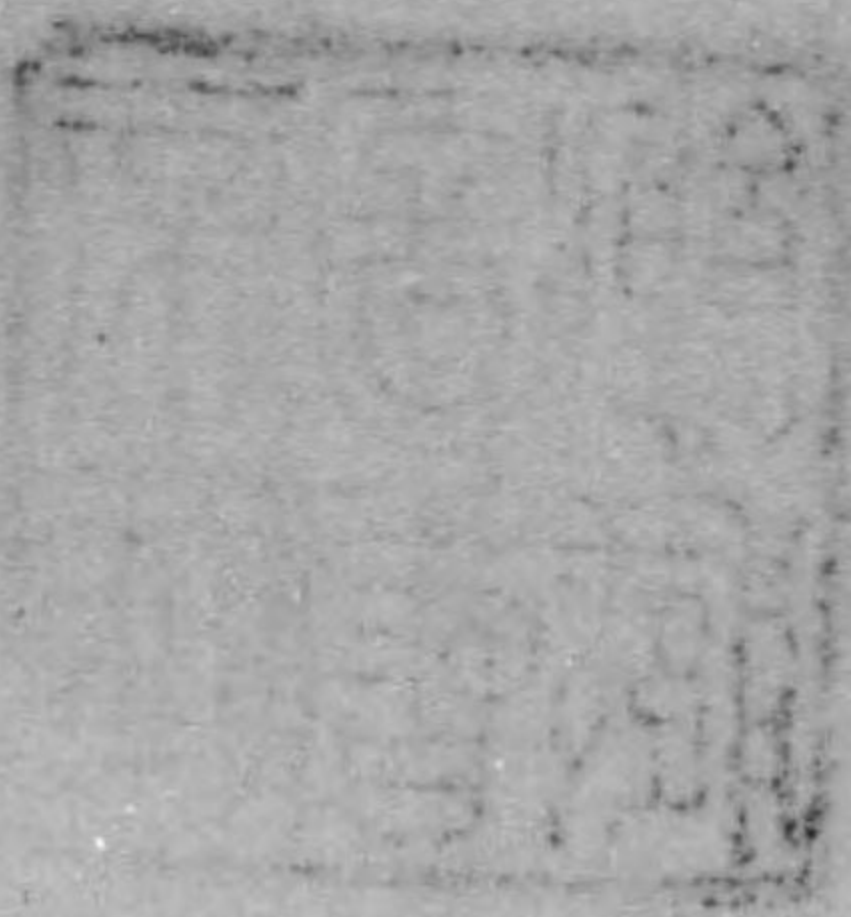
始



大正七年度

佐賀縣水產試驗場業務報告書

142A-307



大正七年度佐賀縣水產試驗場業務報告書

目次

庶務部



一、大正七年度經費豫算及決算.....	一
一、職員職務業務.....	三
一、鯉流刺漁業試驗.....	三
一、オイルランプ試驗.....	一五
鹹水養殖部	
一、鯉被害調查試驗.....	二二
一、重要貝類採苗試驗.....	二七
一、重要貝類養殖試驗.....	三三
一、重要貝類發生調查.....	三六

淡水養殖部

一、鯉兒養成試驗.....	四七
一、粗放養魚試驗.....	四八
一、溜池養鯉試驗.....	四九
一、養鱧試驗.....	五〇
製造部	
一、貝類干製試驗.....	六三
委託試驗	
一、貝藻蕃殖委託試驗.....	六六
一、鯉兒配布委託試驗.....	六七
講習講話	

大正 9.12.18 内交



大正七年度佐賀縣水產試驗場業務報告書

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、

大正七年度佐賀縣水產試驗場業務報告書

庶務部

大正七年度經費豫算及決算

一、支出

一金八千四百拾壹圓也 (此決算七千九百參拾八圓五拾七錢)

內 金千五百參拾六圓 (此決算千參百拾壹圓六拾七錢)

金千參百參拾貳圓

金貳百〇四圓 (此決算參千貳百八拾五圓〇參錢)

金千貳百圓

金四百參拾貳圓

金五拾四圓七拾五錢

金百五拾六圓

金貳百參拾九圓

金參百六拾圓

金六百八拾圓

- 旅費
- 助手
- 給仕
- 常備人夫賃
- 臨時備人夫賃
- 常備漁夫賃
- 臨時備漁夫賃
- 技手
- 書記
- 雜給 (百七拾圓旅費(追加豫算))

金貳拾九圓五拾貳錢
金參千四百五拾四圓(此決算參千參百四拾壹圓八拾七錢)

金千四百拾六圓

金百參拾四圓

金貳百參拾圓

金貳百〇貳圓

金貳百四拾九圓

金貳拾五圓

金百貳拾圓

金六百六拾五圓六拾七錢

金七拾圓

金參百圓

金貳拾壹圓

金百五拾圓

金拾圓

勉勵謝手夫當

場費夫費

備品消耗品費

通信運搬費

印刷費

借地料

借家料

稚貝種魚代

稻田使用料

製造原料費

餌料費

修繕費

依託試驗費

講話會費

遠洋漁業職員養成費



一金千四百拾圓
一金千〇七拾貳圓八拾錢
一、收 入
金千參百八拾壹圓
金五百圓

臨時部
養魚池擴張及修繕費(九百參拾九圓追加豫算)
特別給與金
雜收入
國庫補助

職員擔當業務

場 長 枝師 藤田政勝
漁撈部主任(松浦海出張所詰) 枝手 根岸勝彌
淡水養殖部主任(本場詰) 全 坂本寅市
鹹水養殖部主任(本場詰) 全 能勢忠雄
庶務會計部主任(本場詰) 書記 大坪猶吉
淡水養殖部(養魚池詰) 助手 今村正貫
鹹水養殖部(有明海出張所詰) 助手 芳賀三二

漁撈部

第一 鱈流網漁業試驗

試驗ノ趣旨
真鱈(大羽鱈)漁業ハ本縣外海ニ於ケル重要漁業ノ一ニシテ從來本漁業ノ創始ニ在リテハ漁船、漁具ノ不備、漁法ノ幼稚ナルトニ因リテ不測ノ悲慘事ヲ出來シタル事尠カラス魚獲モ亦揚ラサリシカ逐年改良ヲ加ヘテ近年漸ヤク諸般ノ缺點ヲ補フニ至リ今ヤ魚獲年收貳拾萬圓ニ垂ントス然ルニ一方漁船ノ増加ハ駭々乎トシテ將ニ百艘ヲ算シ爲メニ各自獲得ノ遞減ヲ示スニ至レリ、爰ニ於テ本縣水産試驗場ハ大正五年度漁網ノ改良ヲ試ミシカ爲豫備的ニ從來使用セル網丈ヨリ高キ試驗網ヲ製作シ從來ノ網ニ連絡シテ當業者ニ貸付シ委託試驗ヲ施行シ更ニ六年度試驗場ニ於テ本試驗ヲ繼續セシモ效果別ニ見ル可キモノナクシテ、本漁具ノ魚獲能力ノ大体ニ於テ明確トナラレハ七年度ニ於テハ本試驗ハ一ト先終了スヘク試驗調査ノ方法ヲ改メ主トシテ力ヲ漁場ノ基本ノ調査、並ニ魚群ノ來游ト潮流等ノ關係ヲ探究シ更ニ適種漁船ノ如何ヲ研メタリ

試驗ノ方法

一、試驗船、船ハ漁撈部試驗船初鷹丸長四尋幅七尺深四尺帆裝ハ縱帆二枚、三角帆一枚附、船體構造ハ延繩船ニシテ表ノ間

下セル日各一日アリ爾盛來漁期ニ入りテ二月末日ニ至ル調査漁場ハ馬渡島北沖合ニ於テ投網二回、沿岸加唐島、小川島北沖合ヨリ壹州南海奈島、泉岩島嶼附近ヨリ鳥帽子島西沖合ニ於テ投網十二回タリ、此方面ノ海象ハ水温ニ在リテハ十三度八ヨリ十四度八ヲ昇降シ潮流方向ハ多ク北東ヨリ北ニ偏セリ其速度ハ稍々強ニシテ水色ハ一般ニ混濁シ比重ハ一、〇二五六〇ヨリ一、〇二五八〇ノ間ニ在リ氣温ハ六度ヨリ十四度ノ間ヲ昇降ス、三月ニ入りテヨリ鯉群ハ遇々神集島北沖合、姫島西沖合ニ來游スルヲ認メタレハ主ニ此海域ニ出船シ投網八回、小川島北東沖合ニ於テ二回タリ、猶終期ニ鯉ノ漸次沖合ニ退去スルヲ追ヒテ馬渡島西沖ニ投網スル事三回タリ、三月中潮流ハ北ヨリ漸次北西ニ偏シ、潮勢緩カタリ、比重ハ一、〇二五七〇ヨリ一、〇二五六〇ヲ昇降シ、水温ハ十四度五ヨリ十四度九ノ間、氣温ニ在リテハ一〇度ヨリ一七度ナル變化アリタリ、調査漁場内初漁期中ノ水深ハ三十尋乃至三十九尋線内ニアリ盛漁期中ハ水深二十三尋乃至三十三尋タリ、

如斯海象ニシテ之レヲ前年度ノモノニ比スレハ今年全漁期平均水温ハ二度二分高ク比重ハ一、〇〇六一一低キ差異アリ如斯狀態ヲ以ッテ本年度ニ於ケル本漁業ノ探險ヲ終了セリ、左ニ漁業日誌ヲ掲ケテ本年度試驗經過ノ漁場、海象氣象關係、漁業日數及ヒ漁獲物等ヲ分明セン

漁期

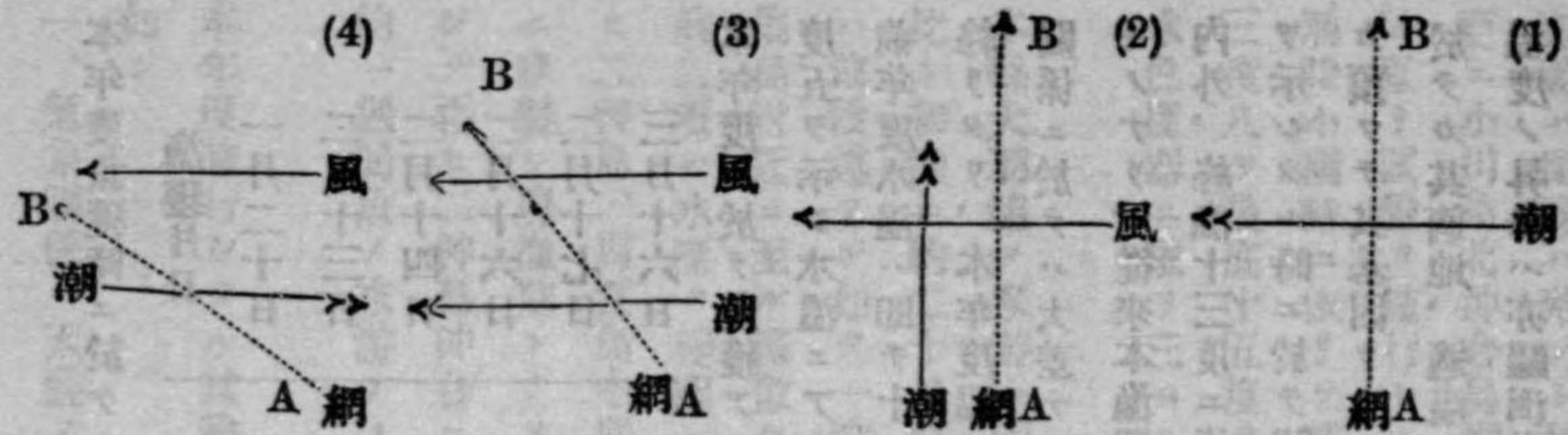
本縣鮭網出漁々期ハ例年陰曆十二月一日前後ヨリ三月初旬ニ至ル百日内外トス、而シテ此漁業ハ重ニ潮流ノ緩ナルヲ可トスルモノナレハ各月一日ヨリ六日迄、十五日ヨリ二十日迄、二十八日ヨリ三十日迄ハ潮勢割合ニ急ナル大潮時ニシテ魚ノ罹リ惡シトス、六日ヨリ十一日迄、二十五日ヨリ二十七日迄ノ小潮時及ヒ十二日ヨリ十四日迄ノ若潮、二十一日ヨリ二十四日迄ノ「ぬび」潮時ハ潮勢緩ニシテ展網並ニ魚ノ罹リ良好ナリ、斯クノ如ク潮流ノ緩急ニ因リ罹魚ノ薄薄ヲ來タスマリ以ッテ之レカ爲出漁日數ニモ影響ヲ及ホシ之レニ時化休漁日數ヲ加フレハ實際ノ漁業日數ハ漁期間ニ於テ其ノ三分ノ二ニ滿タサルニ至ル、漁期中一、二兩月ヲ盛漁期トスレ共氣象及ヒ海況ノ變化ニ應シテ年ニ依リ多少ノ遲速アリ

漁法

漁場ニ達シ、海象、氣象ノ觀測ヲ終リ潮流ヲ横切リテ漸次網ノ一端ヨリ投網ヲ開始ス、漁夫ハ浮標樽、浮子方、身網部ノ捌キ、沈子方ノ操り出シニ各部所ニ着キテ作業ス、投網此處ニ終レハ漸次網ノ沈下シテ其影ヲ没シ海面ニハ單ニ浮標樽ノミ網ノ形狀ニ從ヒテ点在ス此間船頭ハ艫槳ヲ漕キテ役網ノ遲速如何ヲ計リ且ツ潮流方向ヲ見計ラヒテ展網位置ヲ認定シ行クナリ而シテ網ノ末端ニ至レハ之レヨリ出テタル括り網ノ船体トノ連絡ヲ取り船ハ其附近ニ踞蹞シテ網ノ流動ニ從ヒ罹魚ノ浮標樽

ニ表示セラル、ヤ網ノ一端ヨリ揚網ヲ開始スルナリ

魚ハ罹網ノ儘魚籠ニ積載シテ歸港スルナリ



(1) 無風又ハ緩風ト強潮時

此場合ハ網ヲ潮ト正横ニ投入スヘシ

(2) 風向ト潮流正横ナル時

此場合ハ網ヲ潮上ヨリ潮下ニ展網ス

(3) 風向ト潮流同一方向ナル時

此場合ハ潮上ヨリ其方向線ト約三十度ノ傾斜ヲナシテ潮下ニ投入シ行クナリ是レ風上ニ船行セハ容易ニ進マヌ投入網ハ停滯シテ展網困難ナルカ爲ナリ

(4) 風向ト潮流相反スル時

此場合ハ風上ヨリ風下ニ其方向ト三十度傾斜角ヲナシテ投入ス

温度ト鯧ノ來游

漁獲月日	氣温	水温	比	重	漁獲總數
一月二十日	六度	四度	一、〇二五四一		二七五〇尾
二月十三日	九	四、〇	一、〇二五八二		六三八〇
二月十四日	十	四、〇	一、〇二五八〇		五三二〇
二月十六日	十二	三、八	一、〇二五六一		八八〇
二月十七日	十二	四、五	一、〇二五六〇		七七〇
三月十六日	十四	四、八	一、〇二五六四		三〇八〇

本年度魚獲時ニ於ケル海象、氣象關係次ノ如シ
 本年度ニ於テ魚獲アリタル時ノ海洋氣象關係右ノ如クナルカ之レヲ前年度魚獲時ノ夫レニ比較スレハ氣温ニ於テハ平均一〇度五ヲ示シ水温ニアリテハ漁獲時平均一四度二ノ高度ヲ示シ遂ニ前年度迄ノ温度ニ下降スルコト一日モナカリキ
 前年度水温ハ即チ十一度五分乃至十三度五分ノ範圍内特ニ十二度前後ノ時ニ於テ最モ漁獲アリシモ本年ハ近年稀ナル薄漁ニ終リタリ、本年度鯧ノ來游斯クノ如ク不漁ナリシ原因如何ト云フニ單ニ温度ノ變化ニノミ據ルコト能ハスト雖モ他ニ、氣象關係ニ於テハ大差ナカリシモノトモ水温ノ變調カ鯧來游ノ多寡ニ影響ヲ及ホシタルコトハ其ノ一因トシテ見逸ス可ラサル
 モノナリ、從來本漁期ニ於ケル水温ノ如何ハ審カニ知ラ得サレ共過去二ケ年ノ例ニ兆スレハ初漁十三度五分、盛漁十二度内外、終漁十三度ニ達スルヲ例トセリ、故ニ之レヨリ察セハ本漁ノ適度水温ハ十二度内外タルヲ知ル可シ本年ノ如キ高温度ヲ示シタル時ニ於テ鯧ノ來游稀薄ニシテ漁況寂寥タリシハ其原因何邊ニ存スルヤ一様ニ斷スルコト能ハスト雖モ水温ノ變調カ預テ其基因ヲナシタルコト尠シトセサルナリ、即チ畧一定ノ水温ニ從ヒテ産卵ノ爲沿岸ニ來游アリシモノハ何時何地ニ於テカ其適地、適温ニ會シテ既ニ産卵ヲ全フセシモノナランカ
 温度ノ昇降ハ亦鯧洄游ノ區域面ニ變調ヲ及ホス可キモノナレハ從來嘗テ其影ヲ見サリシ海域等ニモ其來游ヲ見又從來ノ魚場モ温度ノ變調ノ爲來游ナカリシカ如キ結果ヲ生スルニ至ルナル可キカ
 本年度神集島沖合ニ鯧ノ來游アリシハ嘗テ其ノ前例ナカリシモノ之レ前述ノ理ニ因リタルナリト推ス

本年度鯧網試驗ハ網具新調シテ五反ヲ從來ノモノニ加ヘテ計十八統ヲ使用シ試驗ヲ一月十一日ヨリ開始シ三月三十一日ヲ以テ終了ヲ告ケタリ、此間出漁日數四十一日、投網回數三十四回ニシテ漁獲高鯧一七三八〇尾、此賣上代金百六拾參圓四拾錢ニシテ漁況一般ニ寂寥不成績ニ終レリ

本年度鯧網試驗ハ網具新調シテ五反ヲ從來ノモノニ加ヘテ計十八統ヲ使用シ試驗ヲ一月十一日ヨリ開始シ三月三十一日ヲ以テ終了ヲ告ケタリ、此間出漁日數四十一日、投網回數三十四回ニシテ漁獲高鯧一七三八〇尾、此賣上代金百六拾參圓四拾錢ニシテ漁況一般ニ寂寥不成績ニ終レリ
 漁場ハ從前ハ殆ント松浦海南西岸、加唐島、馬渡島以西ヨリ二神島ニ至ル沿岸並ニ中間沖合ニ專ラ限ラレタルモノ本年度ハ更ニ小川島北沖合烏帽子島、奈島、泉岩ノ壹州近海ニ至リ且ツ沿岸ハ神集島沿岸迄鯧ノ洄游區域擴大シタルヲ以テ此海域ニ亘リ試驗ヲ施行セリ、此間潮流ハ初漁期中北東ニ、豐漁期中北ニ、三月ニ入りテ北ヨリ北西ニ偏スルモノ多ク其速度ハ大潮時小潮時ニ依リテ緩急アレ共概シテ緩ニシテ流網ニハ多大ノ困難ヲ感セシコトナク、水温ハ上層ニ於テノミ計リシモノ十三度八ヲ最低十五度ヲ最高トシ重ニ十四度内外タリ、比重ハ一、〇二五四一ヨリ一、〇二五八〇ヲ測リ水色ハ「ホーレル」式水色度器ニ依リ三ヨリ五ヲ呈シタリ

漁況

本縣大羽鯧ノ來游ハ例年陰曆十二月一日前後ヨリ三月初旬ニ至ル百日内外トシ本年度モ亦之レニ大差ナカリシト雖モ前年ニ比シ初漁ニ約二十日間ノ遅延ヲ來タシ鯧ノ退去亦約十五日早ク漁業期間ニ於テ前後一ヶ月有余ノ短縮ヲ見タリ、本年度漁況ハ前段述フル如ク一般ニ寂寥ニシテ鯧ノ來游ハ概シテ稀薄ニシテ其洄游區域ハ遠ク壹州南方烏帽子島西沖合ヨリ沿岸近ク神集島附近ニ至ル擴散セル異例ノ漁場ヲ出現セリ、
 前二項ハ水深ク變調ニ基因セルモノト認ム、鯧ノ本縣沿岸ニ來游スルヤ、最初二神島沖合ヨリ潮流ニ從ヒテ南東ニ向ヒテ進ミ二神島、馬渡島中間沖合ニ初漁期ノ漁場ヲ出現シ二月ニ入りテ魚ハ漸次沿岸ニ洄游シ馬渡島、加唐島沿岸並ニ松浦海沿岸ニ來襲シ豐漁期トナリ魚体ハ愈々肥大シテ多量ノ卵ヲ臈スルニ至ル、鯧ハ夫レヨリ小川島方面ニ移動スレ共漸次其ノ數ヲ減シテ再ヒ二神島沖合ニ逸散ス本年度ハ鯧ノ小川島方面ニ見ユルト全時ニ烏帽子島沖合ニ其漁場ヲ現シ終漁期ハ神集島沖合ニ約一週間魚ノ來游アリタリ

結果

本年度施行シタル試驗結果ト從前ノ例トニ鑑ミ此處ニ鯧來游ノ好適氣象關係並ニ漁船ニ付キテ注意事項ヲ摘録スレハ左ノ如シ
 一、氣象關係、天候ノ可良ヲ撰フハ大部ノ漁業ニ於テ望ムトコロナルカ本漁ニ於テハ特ニ然リトス、即チ降雨アリ風力強烈

ナレハ海水混濁シテ魚ハ群集ヲ亂シテ散逸シ海底深ク沈下スルニ依リ本流網ノ如キ上、中、層ニ展網シテ捕獲スルニハ不適當ナリ

二、海象關係、前後ノ實例ニ徴スレハ、鯉來游ニ適當ナル豐漁期ノ海象關係ハ水温ニ於テ十一度乃至十三度トシ十二度内外ヲ適温トシ比重ハ一、〇二五六〇ヨリ一、〇二五八〇ニ亘リ潮勢ハ緩ナル小潮時及大小潮交代ノ方言若潮、ぬび潮時ハ海水澄清シテ共ニ潮勢緩ナル時ヲ最モ良シトシ宵夜ニ於テ月光淡キ時魚ノ罹リ良好トス

三、漁船、本漁ハ漁場ノ遠近ニ依リテ多少ノ差異アレ共主ニ午後二時前後ニ根據地出帆シテ風力ニ依リ漁場ニ達スルモノナリ、漁期間ニ在リテハ重ニ北ノ風多ク「まざり」走りニ依リテ漁場ニ達シ得ラル、モノナレハ從來ノ普通帆船ハ其構造「まざり走り」ニ適スル様建造セサル可ラス、網具ノ構造使用方ニ在リテハ何レノモノモ殆ント其差異ヲ見ス改良ヲ加フ可キ点殆ント無キニ到リタル今日ニ於テ漁、不漁ノ岐ル、處ハ實ニ漁船ノ良否即チ「まざり走り」ノ利クモノナリヤ否ヤニ依リ隨時隨處ニ船ヲ操縦シ得ルト、然ラサルトニ在リ、當業者ハ事後本漁業ノ成果ヲ收メントセハ宜シク漁船ノ改良ヲ計ルニ在ルナリ

帆船トシテ「まざり走り」造リトセンニハ、船ノ立チヲ大ニ船首部洞ノ間邊迄ヲ狭瘦ナラシメ、前處、後處ノ割合ハ稍々前處ヲ長ク後處ノ立チヲ少ナカラシムル様「建造」可シ、是レ帆船トシテ構造ノ改良ヲ述ヘタルナレ共要ハ漁期間中風力ノ如何ニ係ラス隨時隨所ニ最モ敏速ニ船ヲ操縦シ得レハ夫レニテ目的ハ達セラル、モノナリ、此處ニ於テカ本漁ノ發達ヲ計ラントセハ船ヲ、補助機關付トナシテ發動機ヲ据付クルコト焦眉ノ急務タリトス、發動機船ノ要ハ單ニ漁場ノ利ヲ占メ操業時間ノ經濟ヲ全フルノミナラス更ニ進ミテ魚ヲ運搬ガシ相當ノ市場ニ到テ高價ヲ爲シ得ラレ而カモ機關ノ運轉費ハ幾何ヲ要セスシテ數等ノ純利ヲ擧ケ得ラル、本發動機船ノ出現ヲ期シテ止マサルモノナリ

鯉流網漁業試驗期間及漁獲高表

月	漁業總日數	出漁日數	投網回數	休漁	漁獲總數	價格
一月	二十一日	十日	八回	十一日	二七五〇尾	三五、〇〇〇
二月	二十八日	十六日	十四回	十二日	一、一五五〇	一〇四、六〇〇
三月	三十一日	十五日	十二回	十五日	三、〇八〇	二、三八〇〇

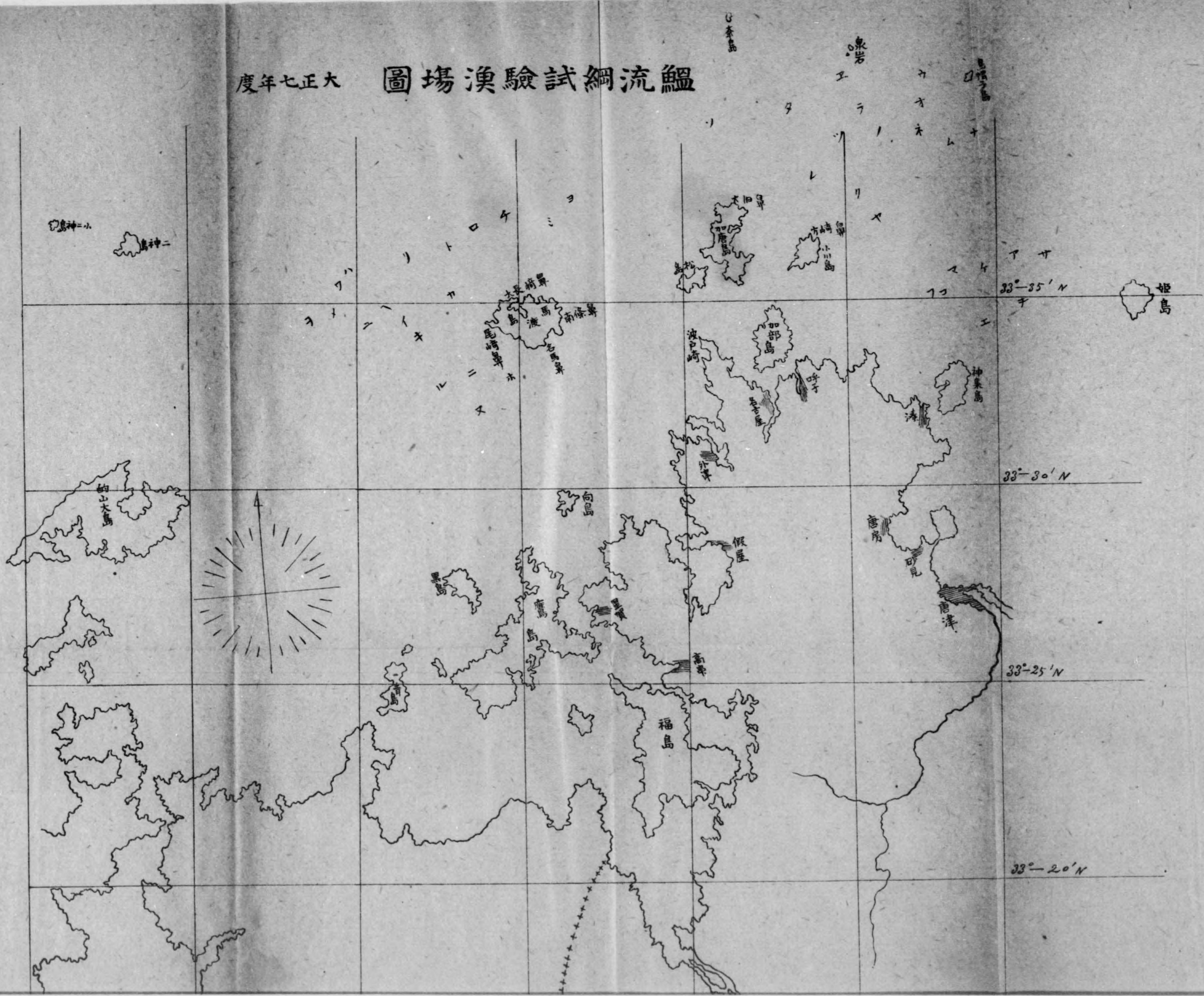
完

鯉流網試驗日誌

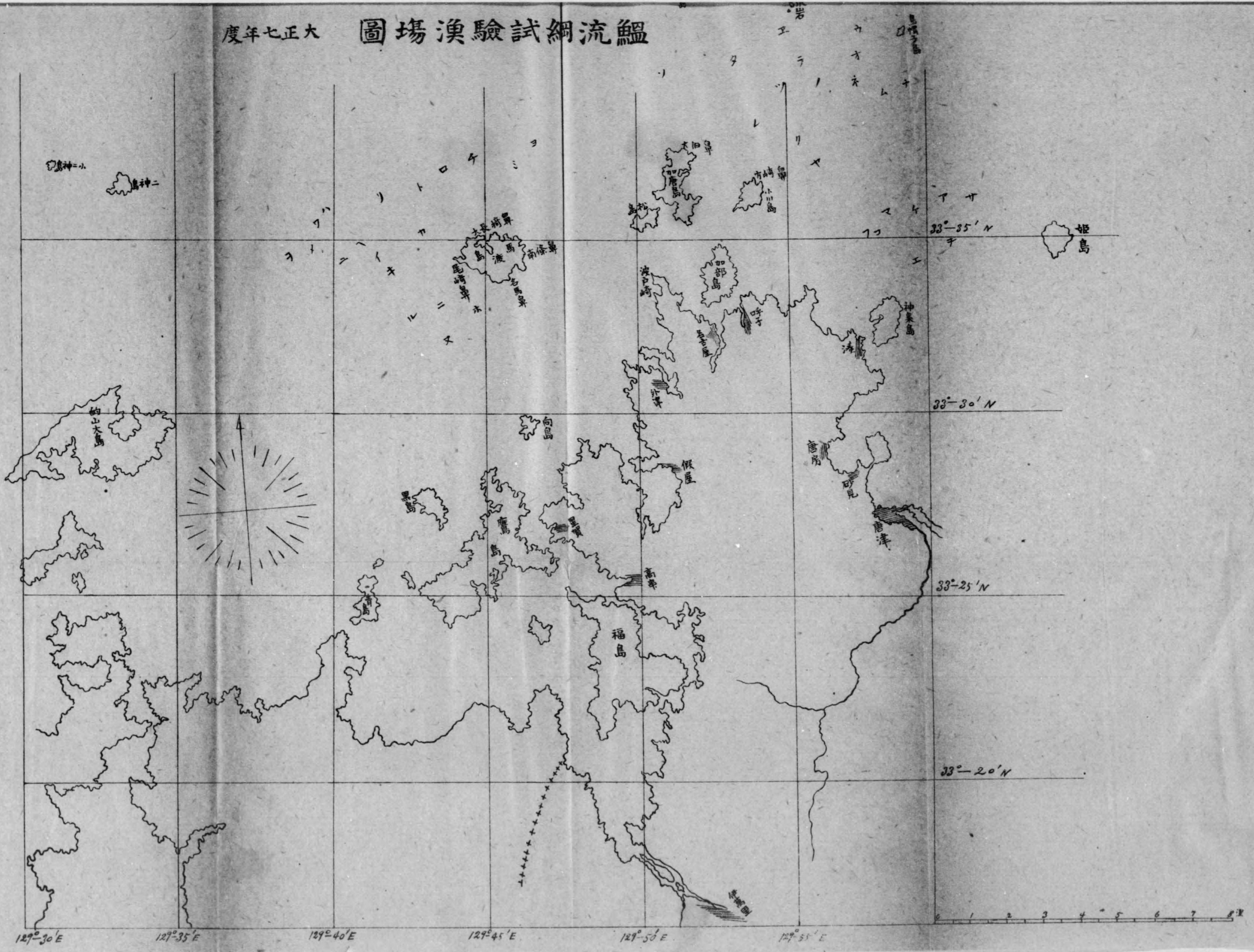
大正七年度

月日	天候	風	海	水	潮流	漁具	揚網時	漁獲物	記
一月一日	晴	北	和	北	北	後	四、〇〇	イワシ	出船準備ヲナス
一月二日	晴	北	和	北	北	後	四、〇〇	イワシ	午後一時呼子港出帆五時半
一月三日	晴	北	和	北	北	後	四、〇〇	イワシ	漁場着投網、翌前四時揚網
一月四日	晴	北	和	北	北	後	四、〇〇	イワシ	正午出帆セシカ船破損セシ
一月五日	晴	北	和	北	北	後	四、〇〇	イワシ	天候險惡ナルヲ以テ出船セ
一月六日	晴	北	和	北	北	後	四、〇〇	イワシ	午前十時呼子港出帆前五時
一月七日	晴	北	和	北	北	後	四、〇〇	イワシ	午後三時馬渡島ニ歸航ス午
一月八日	晴	北	和	北	北	後	四、〇〇	イワシ	四時馬渡島出帆漁場ニ向ヒ
一月九日	晴	北	和	北	北	後	四、〇〇	イワシ	午前三時呼子港ニ入ル獲魚
一月十日	晴	北	和	北	北	後	四、〇〇	イワシ	網ノ整理ヲナス
一月十一日	晴	北	和	北	北	後	四、〇〇	イワシ	天候險惡、網ノ整理ヲナス
一月十二日	晴	北	和	北	北	後	四、〇〇	イワシ	時化休漁
一月十三日	晴	北	和	北	北	後	四、〇〇	イワシ	時々微雪アリ風強ク出漁ス
一月十四日	晴	北	和	北	北	後	四、〇〇	イワシ	揚網中船損折損魚獲ナシ
一月十五日	晴	北	和	北	北	後	四、〇〇	イワシ	魚獲ナシ
一月十六日	晴	北	和	北	北	後	四、〇〇	イワシ	時化休漁
一月十七日	晴	北	和	北	北	後	四、〇〇	イワシ	天候險惡ノ爲中途揚網ス、
一月十八日	晴	北	和	北	北	後	四、〇〇	イワシ	魚獲ナシ
一月十九日	晴	北	和	北	北	後	四、〇〇	イワシ	強風トナリタルヲ以テ歸港
一月二十日	晴	北	和	北	北	後	四、〇〇	イワシ	魚獲ナシ、馬渡島泊
一月二十一日	晴	北	和	北	北	後	四、〇〇	イワシ	午前三時呼子港ニ入ル

大正七年 鯉流網試驗場圖



大正七年 鯉流網試驗場圖



第二一 プランチャードランプ試験

一、試験ノ趣旨

二、構造

三、使用法

イ 石油及空気が注入法

ロ 点火法

ハ 消燈ノ事

ニ 調節針ノ使用法

ホ 一般注意

四、試験ノ方法並ニ経過

五、プランチャードランプノ特長

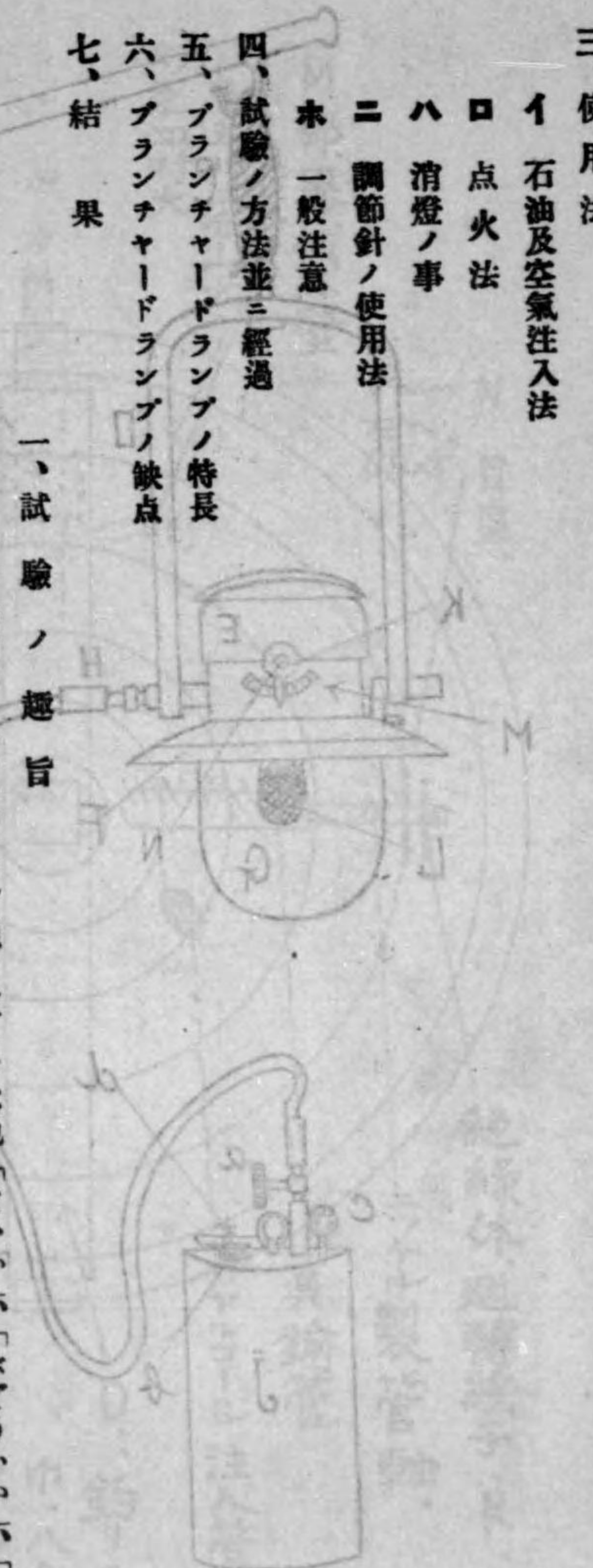
六、プランチャードランプノ缺点

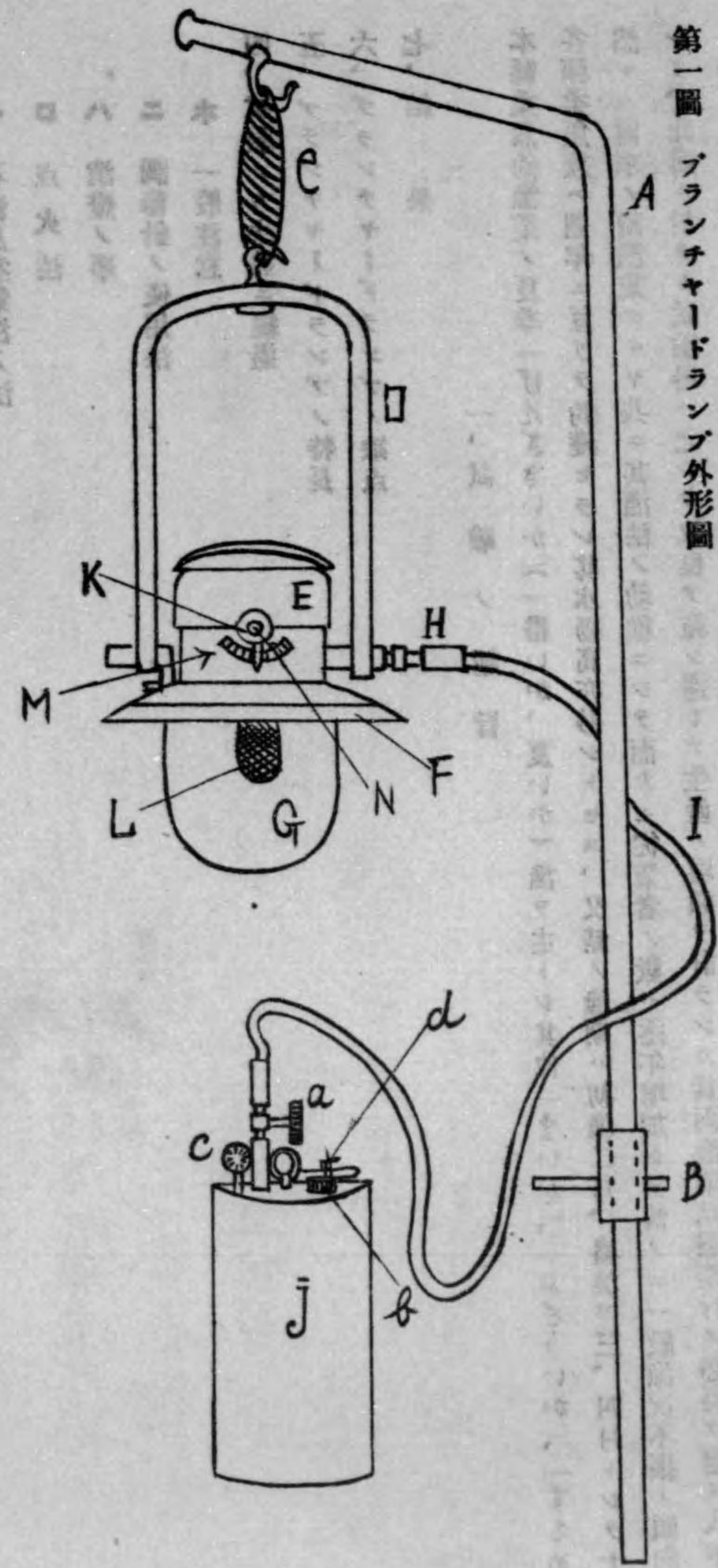
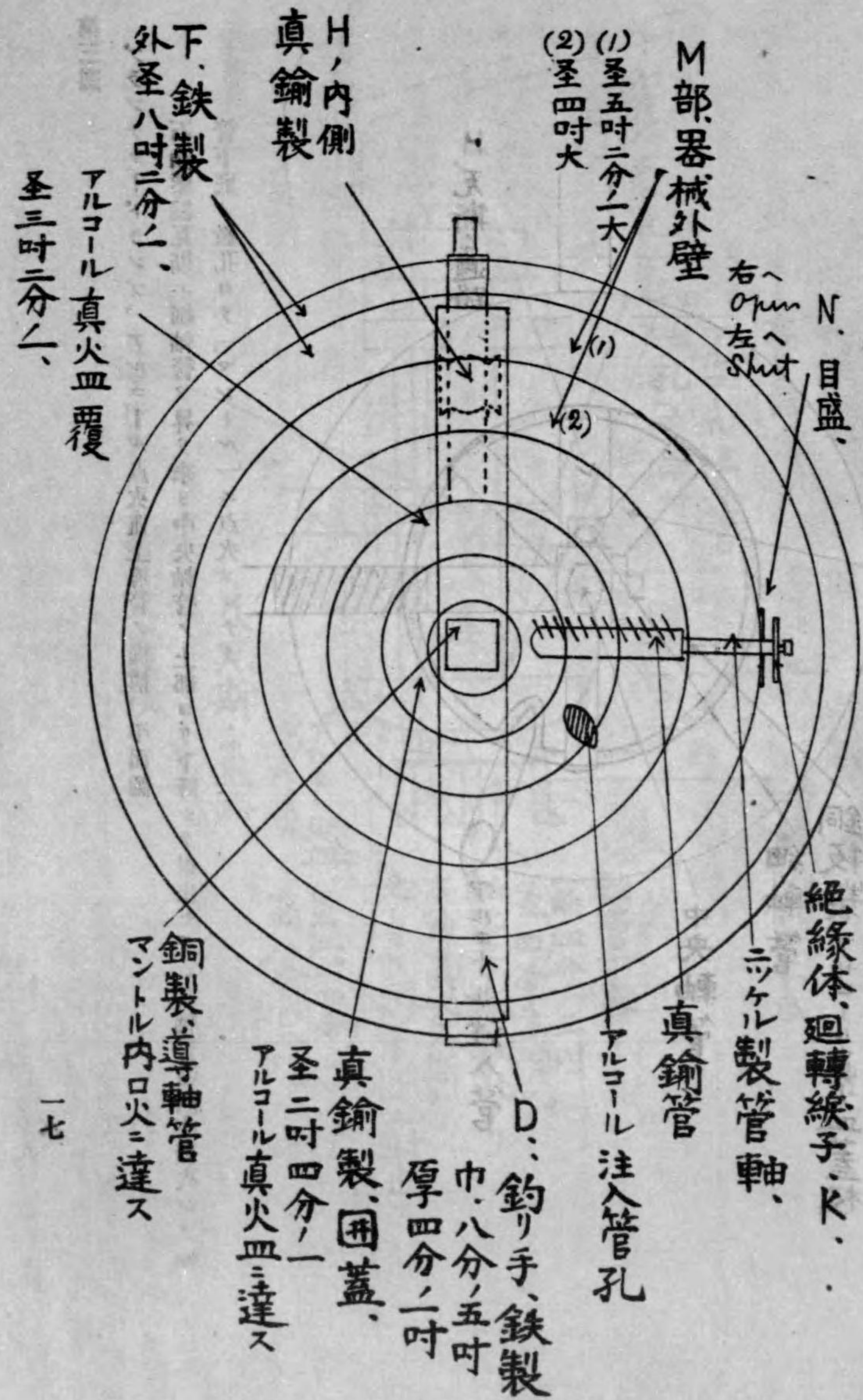
七、結果

一、試験ノ趣旨

本縣柔魚釣漁業ノ夏季「げんざきいか」(一番いか、夏いか)漁ヲ主トシ其他「せいいか」、「ぶどういか」、「するめいか」等ノ各種柔魚族ハ週年ニ亘リテ釣獲セラレ其水揚高亦尠シトセス、又鯖ノ漁期ハ初漁二月、盛漁ヲ三、四月トシテ十月ニ至ル、然ルニ爾來ノ兩漁業タルヤ共ニ其漁法ノ幼稚ニシテ而カモ従業者ノ數ハ逐年増加シテ爲メニ一般漁況不振ノ傾向ヲ示スニ至レリ、此處ニ於テカ試験場ハ之レカ改良ヲ施シ進ミテ生産ノ増額ヲ計ランカ爲メ兩漁業試験施行ノ必要ヲ認メ八年度試験事業ニ計上セリ

本プランチャードランプ試験ハ右試験趣旨ニ基ク施行事業ノ一部タル集魚燈ノ試験タリ、抑モ本縣從來使用ノ集魚燈ハ「アセチレン瓦斯「ランプ」ニシテ其構造並ニ使用法簡易且廉價ナルヲ以ツテ一般業者ノ需要ニ充テリト雖モ光力薄弱而カモ魚獲ノ燃料消費ニ相償ハサルモノアリ、依ツテ試験場ハ「プランチャードランプ」ヲ大阪市全會社ヨリ取寄セ十一月二十二

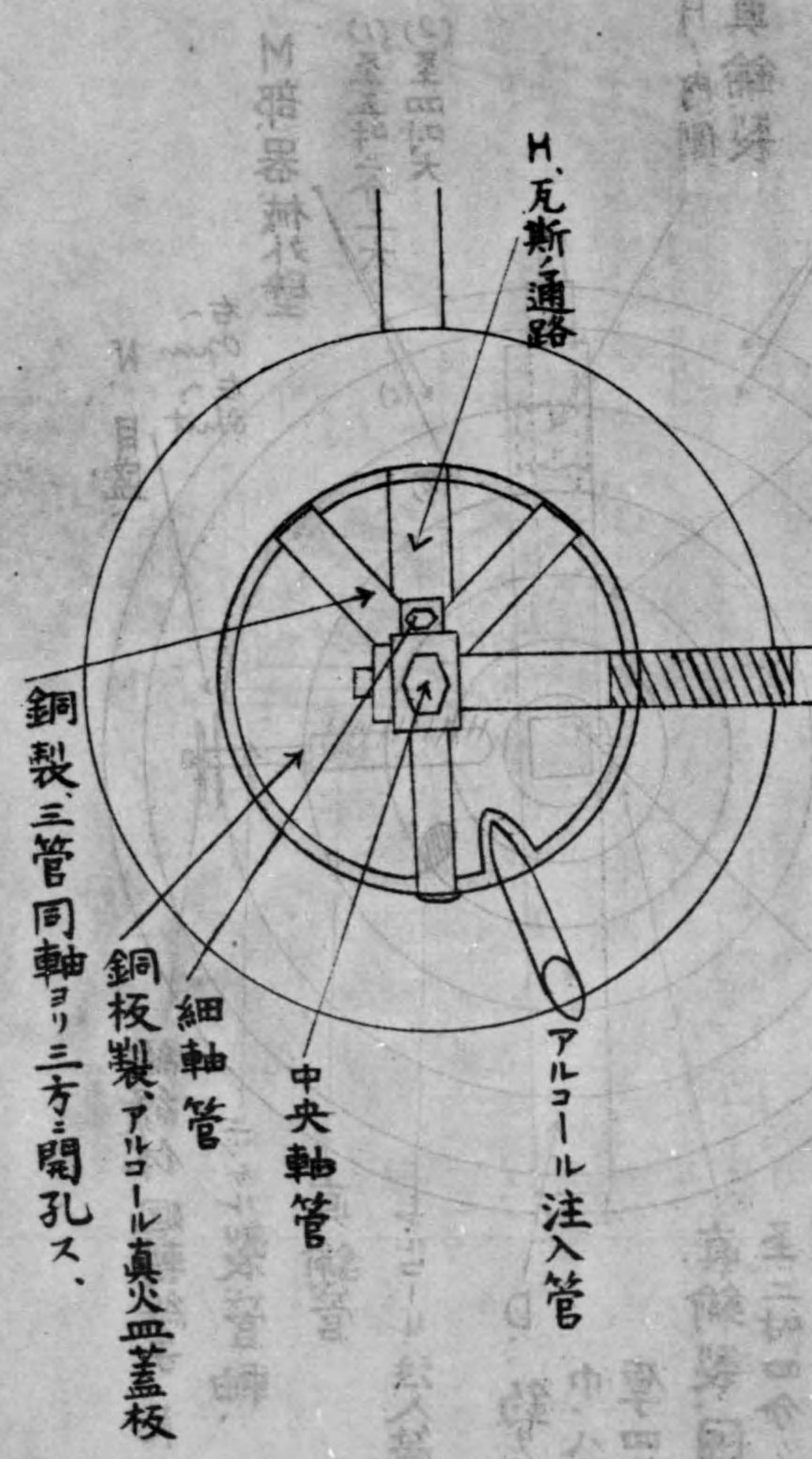




日ヨリ全二十六日に至ル五日間其購入試験ヲ施行セリ、本試験ニ於テハ重ニ實際使用上ニ於ケル、機械取扱ノ便否、燃料消費量等ヲ試験シタルモノニシテ光力ハ單ニ熾烈ナリト雖モ海面積並ニ深度ニ對スル光達距離及ヒ光色其他カ果シテ柔魚釣漁鯖漁ニ對シ適否如何ハ今回ノ短時日ナル本試験ニ於テハ探究スルニ至ラヌ後日ノ實地試験ニ讓レリ

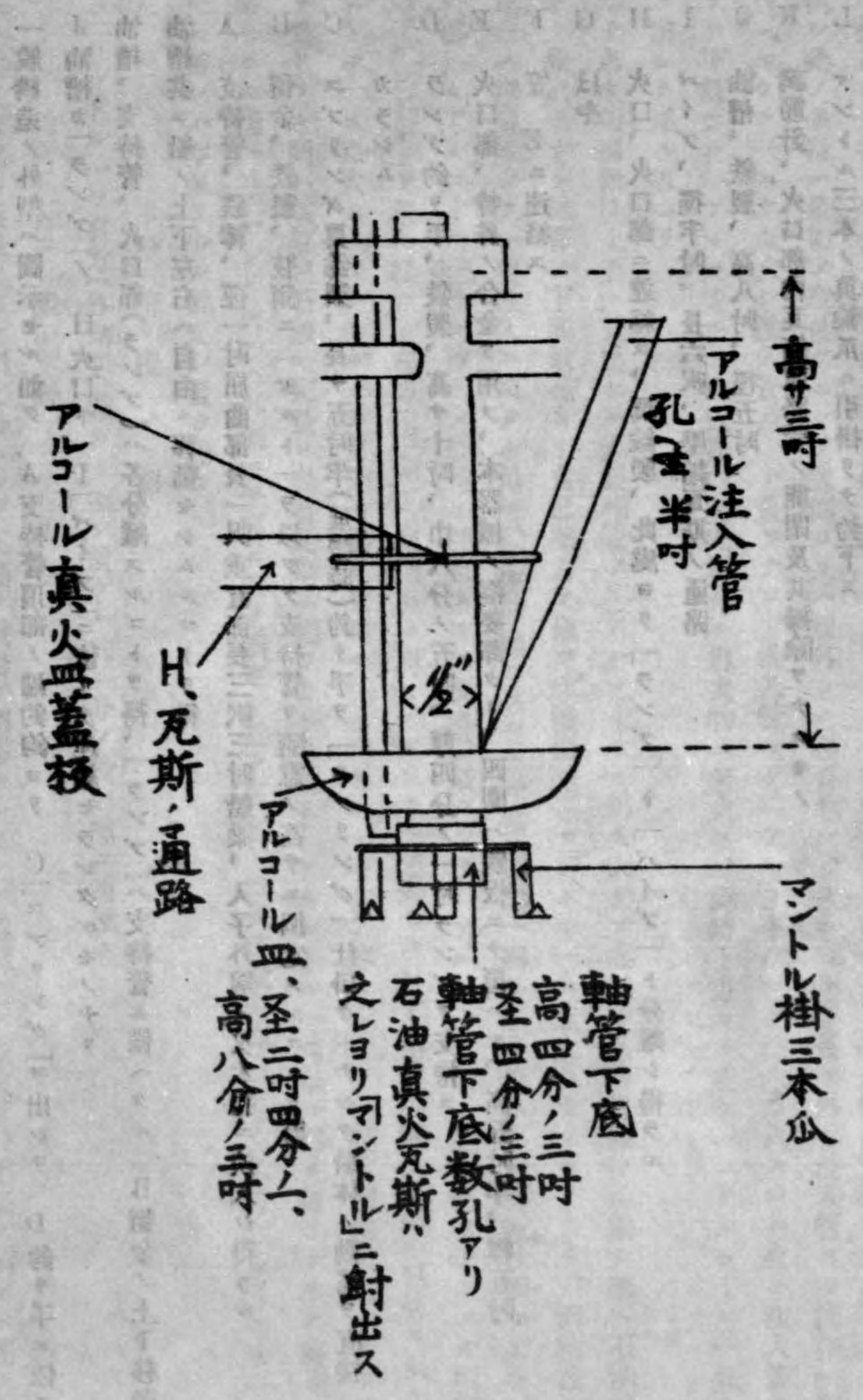
第三圖

プランチャードランプ、アルコール点火皿上導管ノ機構、平面圖
石油壓縮瓦斯ハ細軸管ヲ昇リ來リ中央軸管ノ上部ヨリ下降シテ射出セラレ其軸管通過中發火シテ軸管下底ノ數孔ヨリ「マントル」ニ点火スルナリ



第四圖

プランチャードランプ軸管主要機構部圖



構造一般ノ説明 (第一圖)

- 一般構造ノ外型ハ圖示セル如ク A 支持管頂部ノ端鈎ヨリ C「スプリング」ヲ出シテ D 鈎リ手ニ依リテ支持シ之レニ
 J 油槽カ「ランプ」ノ H 火口ト I「パイプ」ニ依リテ連絡セラレタルモノナリ
 油槽、支持管、火口部(ランプ)ハ各分離スルコトヲ得、「ランプ」ハ支持管ニ備ヘタル B 留金ノ上下移動ニ依リテ支持管、
 油槽共ニ船ノ上下左右へ自由ニ移動セシムルコトヲ得
 A 支持管、鉄棒、徑一吋屈曲部長一呎垂直部長三呎三吋船梁、入子外端ノ又木孔ニ挿入シ得ラル
 B 留金、鉄製、舷側ニ「ボルト」ヲ以ツテ支持管ヲ隨意ノ高サニ個定スルコトヲ得
 C スプリング眞鍮製、長サ五吋半(展張時)鈎リ手ヲ「スプリング」仕掛ケトナシテ船体ノ動搖ヲ直接「ランプ」ニ影響ナ
 カラシム
 D ランプ鈎リ手、鉄製、高サ十吋、巾八分ノ五吋、厚四分ノ一吋ランプヲ支持ス
 E 火口部、特殊ノ合金ヲ用フ、本器械ノ樞要部タリ、四圍ハ鉄板ニテ覆ハル、高五吋半、徑五吋
 F 笠 Eニ連絡ス
 G はや
 H 火口、火口部ニ連絡ス、眞鍮製、此處ヨリ「ランプ」ト「パイプ」ト分離シ得ラル
 I パイプ、徑半吋、長六呎、壓縮瓦斯ノ通路
 J 油槽、鉄製、高八吋、徑五吋
 K 調節針、火口部内瓦斯通路管ノ開閉及其掃除ヲナスモノ
 L マントル三本ノ眞鍮爪ニ引掛リテ鈎下ス

三、使用法

イ 石油及空氣注入法

油槽上ニ取付ケアル B 注入孔ヲ取外シテ石油ヲ油槽ノ八分目量注入シ次ニ B 注入振子上取付ケアル突起口ノ蓋ヲ取外シ
 テ附屬ノ「ポンプ」ニテ油槽上取付ケノ石油計ノ磁針カ二十封度(中央ノ赤線)ヲ指スマテ空氣ヲ入レ蓋ヲナシ置クナリ
 石油ヲ注キ入ル、時ニハ必ス I「パイプ」ノ基部ニ取付ケアル A「ハンドル」ヲ確メ置ク事必要ニシテ此石油及空氣注入

ノ分量ハ点火上最モ注意ヲ要スルモノナリ、特ニ空氣注入ノ量過度ニ至ル時ハ混合石油瓦斯ノ壓力激甚ナル爲其憤出力過大
 トナリテ点火瓦斯ハ「マントル」ヲ吹キ破リテ遂ニハ「はや」ヲモ破壊スルニ至ル可シ初度壓力ハ聲口緩カナル程度ニ於テ
 シ光力軟弱ナルヲ見テ漸次數回ノ空氣注入ヲナスカ安全ナル可シ

ロ 点火法

先ツ取付ケノ振子ヲ緩メテ F 笠ヲ開ケ圖ノ如ク「マントル」ハ「アルコール」皿下ノ三脚爪ニ掛ケ、「はや」ハ笠ノ上部ヨ
 リ挿入シテ共ニ取付ケ元ノ通り笠ヲ縮メ置クナリ
 但シ此ノ準備ハ最初ノ取付ケニシテ次回ヨリハ取外シノ必要ナシ、次ニ Eノ蓋ヲ外シ注入管ヨリ酒精一回分丈ク注キ其口
 へ「マツチ」ニテ点火シ注入管及 F 蓋ヲナス、注入管ヨリ「アルコール」ヲ注入点火スレハ火ハ注入管内ノ導火線ヲ傳ハ
 リテ下底ナル「アルコール」点火皿内ニ充填セル導火物ニ著火ス、此時下方ヨリ覗ケハ「アルコール」皿上ニテ酒精ノ青焰
 ヲ出シテ燃エ居レリ
 即チ点火部樞軸ヲ上下ニ貫通セル銅製軸管ヲ「アルコール」焰ニ依リテ赤熱シ其中央管ヲ通過シ來ル石油混合瓦斯ハ此處ニ
 於テ發火ヲナシ軸管ノ下底數孔ヨリ自己壓力ヲ以ツテ憤出シ「マントル」ニ点火ヲナスモノナリ、酒精注入ニ用フル「酒精
 差」ハ銅製ニシテ一度注入ニ傾タル毎ニ(軸管亦熱ニ必要ナル發熱量)一回分ノ分量タケ出ツル仕掛ケナリ、故ニ注入ノ際ハ
 外部へ「アルコール」ヲコボサヌ様特ニ注意スルヲ要ス、斯クシテ「アルコール」ノ燃エ盡サントスル頃(凡ソ二分間ノ後)
 A「ハンドル」ヲ最モ緩カニ左方(内側)へ回轉セハ再ヒ「マツチ」ヲ要セスシテ爾後送管ノ瓦斯ハ軸管ニ至リテ自ら發火シ「マ
 ントル」ニ点火ス「マントル」カ充分ニ光ヲ放テハ「ハンドル」ハ其ノ停マルマテ一杯ニ回轉シ置クナリ、火口カ充分ニ熱
 ヲ受ケサル間ハ空氣、石油ハ完全ニ混合瓦斯ニ變ラサルカ故ニ「アルコール」カ未タ燃エ盡サハルノ前ニハ決シテ石油ヲ送
 出セサル様 A「ハンドル」ハ外側ニ一杯ニ振リ個定シ置ク可シ、点火後數時間ニシテ空氣ノ「マントル」多少下降シ光力弱
 キニ至レハ空氣ヲ少シ補充シ置ク可シ

ハ 消燈ノ事
 A「ハンドル」ヲ右方(外側)へ確カリ振シ置ケハ約一分ノ後自然ニ消燈ス

ニ 調節針ノ使用法

五 其ノ末端ニ裝置シタル調節針ニシテ瓦斯ノ通路ヲ清掃スルモノナレハ必ス点火又ハ消燈ノ爲メニ用ユルコトナシ但シ指

針一杯右ニ回轉セハ瓦斯通路開キ左轉セハ通路ヲ閉ス、瓦斯ノ燃焼不良ノ時ハカヲ入レヌ様輕ク左右ニ一回轉振デレハ十分ナリ、尙使用後ハ一回宛掃除シ置ク可シ

本 一 般 注 意

- A 酒精ハ工業用「メチール」「アルコール」ニテヨシ
- B 新シキ「マントル」ヲ用フル時ハ初メ一回丈「マツチ」ニテ燒ク、二度目ヨリハ之レヲ爲スニ及ハス
- C 前述セル如ク壓縮石油ヲ通スル前ニハ十分火口ヲ熱シ置ク事必要ニシテ若シ誤テ早ク石油ヲ出タシ其儘赤ク燃ユルコトアラハ只 A「ハンドル」ヲ閉メ自然ニ消ユルヲ待テ再ヒ点火ス可シ「パイプ」上端 H部ノ金具カ手ヲ當テ充分熱クナルニ至レハ大低火口モ熱セラレタルモノト見テ大ナル誤リナカラン、即チ注入セル「アルコール」一回分ノ完全燃焼ニ依リテ H部ノ十分熱クナリ火口ハ熱セラレ、モノナリ

四、試驗ノ方法並ニ經過

試驗船初鷹丸ニ漁夫三名ヲ乗込マシメ集魚燈、柔魚釣具ヲ備ヘ加部島二湮沖合ニ於テ週夜点燈試驗ヲ爲ス其經過次ノ如シ

五、ブランチャードランプノ特長

- (1) 本ランプハ三百燭光ニシテ石油瓦斯價出孔ノ大サハ千分ノ八、五吋タリ、石油消費量ハ本器三百燭光ニテ一時間約五勺タリサレハ一夜出漁ノ消費量ハ僅カニ五合ヲ以ツテ足ル可シ、目下本縣當業者ノ使用シツ、アル「アセチリン」瓦斯ノ一夜使用量トノ比較セハ時價石油五合ノ値段金參拾五錢タリ然ルニ「アセチリン」「瓦斯ランプ」一夜消費量七十五燭ニテ三百匁價參拾七錢タリ、故ニ光力ノ効果ニ於テ四倍ノ利益ヲ得ラル、譯ナリ
- (2) 使用「瓦斯ランプ」ハ七十五燭光ナル本「ブランチャードランプ」ハ三百燭光タリ其光輝ノ強烈ナルコト自明タル可シ構造ハ前述セル如ク火口部ハ特殊ノ合金ヲ用ヒ、良ク長期間ノ使用ニ堪ユ可シ、油槽ト火口部ト全ク分離セラレ、カ故ニ墜落其他如何ナル場合ト雖モ失火ノ危險ナシ
- (3) 船ノ内外何レノ箇所ニモ取付ケ自在ニシテ特ニ舷側ニ取付ケ得ル様裝置シアリ
- (4) 本ランプノ光色ハ自然ノ純白ニシテ夜間色ノ識別容易ナリ
- (5) 本ランプハ下向燈ナルヲ以ツテ其光線ノ放射水平ナラス高度ニ依リテモ其ノ直下ニ影ヲ生スルコトナク下方一帯萬遍ナク光輝行キ渡リ陰影ヲ生セス
- (6) 六、「ブランチャードランプ」構造上ノ欠点ト其改造事項

六、「ブランチャードランプ」構造上ノ欠点ト其改造事項

- (1) 空氣注入指針計ノ構造堅牢ナラサル爲往々指針取外レテ其効ヲ爲サス、一旦此部損傷セハ其修整ニ容易ナラス特ニ避遠ノ漁村等ニ在リテハ漁夫ノ容易ニ改修シ能ハサルモノタリ、而カモ空氣注入量ノ多少ハ本ランプ点火上最モ緊要ナルモノニシテ若シ此ノ分量ヲ誤ランカ到底本器ノ効ヲ奏スル事能ハサル可シ
- (2) 石油注入孔把手上取付ケタル A突起孔ハ眞鍮製空氣注入孔タリ、之レニ附屬ノ棒狀「ポンプ」ヲ振子差シテ空氣ノ注入ヲ行フ時ハ必ス突起孔振棒ト「ポンプ」トハ一直線ニ保持シテ注入セサル可ラス、然ルニ船ノ動搖並ニ注入ノ手加減ハ到底此ノ二者ヲ直線ニ保持シテノ作業甚タ困難ニシテ何時シカ突起部ニ無理ノ力ヲ及ホシテ之レヲ振子切り効ヲナサ、ニ至ル可シ、サレハ此ノ注入突起ト「ポンプ」トノ中間ニハ護謨管ヲ以ツテ中介セシメ如何ナル動搖傾斜ニ於テモ安全ニ注入シ得ラル、様機構スルヲ要ス
- (3) 「ランプ」ハ上部「スプリング」ニ依リテ上下ノ震動ニ堪ユルモ特ニ小型漁船ノ左右舷動(ローリング)ニ對シテハ何全ニ等ノ機構ナシ、サレハ「ランプ」ノ笠ハ動搖ノ都度支持鉄管ニ衝突シテ爲メニ「ランプ」ヲ傷メ軟弱ナル「マントル」ヲ破壊スルニ至ル可シ、サレハ船ノ「ローリング」動ニ對シテモ「ランプ」ノ支持管ニ衝突セサル様裝置ヲ施スノ必要アリ

七、結 果

本ランプノ効果ハ上述ノ如ク當業者ノ實地使用ニ當リテ機構上更ニ改良ヲ加フルニ非サレハ成果ヲ收メ難キナリ、取扱上相當熱練ヲ要スルモノアリト雖モ機構ノ改善ヲ加フルニ依リテハ大イニ輕減セラル可キモノアリ、要スルニ本縣ノ如キ集魚燈ノ使用ヲ必要トスル各種有望漁業此後ノ發展ヲ期スルニ於テハ該器ノ撰擇ト改善トヲ計ラサル可ラサルナリ 終リ

鹹 水 養 殖 部

鯉 被 害 調 査 及 試 驗

一、春季鯉被害ノ經過

本年春季煙被害ノ狀況ヲ各所ニ付キ調査シタルニ左ノ如シ

イ 濱川尻附近、五月十一日各煙發生地域ニ就キ被害調査ヲナシタルニ何等兆候ヲ認メサリシニ越ヘテ十四日再度調査ノ際ニハ濱川尻附近ニ於テ未タ斃死スルニ至ラサレドモ稍稚介衰弱シ被害ノ徴候ヲ認メタリ而シテ十六日及十七日ニ至リテハ續々斃死スルモノヲ認メ續ヒテ十八、十九日ニ亘リ最モ激甚ヲ來シ殆ド絶滅ノ有様ヲ呈スル箇所モ不尠ルモ狀況ヲ認メタリ而シテ以後ハ大ナル變化ナク二十四、五日頃ニ至リテハ尙僅ニ沖合ニ被害ヲ認メタルモ一般ニ微々衰弱ニ向ヘリ而シテ本年度被害ノ經過狀況ヲ見ルニ其ノ初期ニ在リテハ沖合地ニ輕微ニ沿岸ニ近接セル地域ニテ激甚ノ度ヲ加フルヲ認メタリ左ニ初期及終期ニ於テ各處ニ就キ調査シタル斃死數ヲ比較表記スヘシ

沖合地 中央地 沿岸地	初期 (五月十八日)		終期 (五月二十四日)		平均斃死率
	一尺平方内棲息數	全上斃死數	一尺平方内棲息數	全上斃死數	
沖合地	五〇個	一〇個	七個	七個	一七五
中央地	全	一八個	二〇個	八個	三七一
沿岸地	全	二五個	全	七個	四五二

鹿島川尻(俗稱「トリツゴモリ」)五月十八日調査シタルニ濱川尻ニ於テハ被害既ニ激甚ヲ極メ居リシニ比シ些カニ稍々沖合ニ於テ稚介ノ衰弱シツ、アルヲ見タルニ過キサリシモ次テ全月二十四日調査ノ際ハ既ニ被害全面ニ波及シ居ルヲ認メタリ而シテ全日以後ノ狀況ハ六月上旬ニ至ルモ尙微々認メタルモ次々輕微ニ向ヒタリ被害斃死數左ノ如シ

調査点	一尺平方内棲息數		全上斃死數	
	A	B	A	B
A	二九個	四〇個	一〇個	三三個
B	四〇個	三三個	一三三個	三三個
C	三三個	三三個	一三三個	三三個

但シ A ハ最モ沖合ニ位シ O ハ最モ陸岸ニ近ク B ハ畧ホ中間トス

鹽田川尻(俗稱ウシヤエゴ瀉)前者ト全日ニ調査シタルニ被害發生時日等ハ畧ホ同様ナルヲ認メタリ斃死數左ノ如シ

調査箇所	一尺平方内棲息數		全上斃死數		斃死率
	A	B	A	B	
A	五〇個	三〇個	一七個	四六	三七
B	三〇個	三〇個	一四個	四六	四六

白石瀉、此ノ地域ハ天然發生ノ稚介ハ皆無ナルヲ以テ養殖煙ノ殘存介ニ就キ五月十七日調査シタルニ既ニ被害相當激甚ヲ來シ斃死スルモノ多キヲ認メ越ヘテ全月二十五日再調査ノ際ハ過半數ノ斃死ヲ見殘存セルモノ稀ニ最モ激甚ナルヲ認メタリ

前記各箇處共六月ニ入り十五、六日頃迄ニハ何レモ微々被害ノ徴候ヲ認メタルモ既ニ終熄ニ近キツ、アルヲ知レリ要之ニ本年春季被害ノ經過ヲ見ルニ其ノ期間ハ相當ニ永ク一ヶ月乃至一ヶ月半ニ亘リ且ツ被害ノ度モ相當激甚ヲ極メ全滅ニ近キ箇處多キヲ認メタリ而シテ其ノ被害ノ跡ヲ見ルニ最初沿岸地域ニ初マリ逐次沖合地域ニ波及シタルノ狀況ヲ示スヲ見ル可シ勿論煙ノ棲息狀況ハ沿岸地域ハ稚介發生地ニシテ密集棲息セルモ沖合地域ハ其ノ棲息稀薄ナルヲ以テ其ノ被害斃死率ニ於テハ大差ナキ謂フヘキモ被害終期ニ於ケル狀況ヲ見ルニ沿岸地域ハ既ニ終熄シタルニ沖合地域ニ在リテハ尙之レヲ認メタルカ如キ亦其ノ關係ヲ示スモノナリ

一、被害停止期査定

煙養殖業者ハ被害停止後速時稚介蒔付ヲ爲スヲ要スルヲ以テ停止期ノ正確ナル調査々定ヲナサンカ爲メニ左表ノ如ク煙ノ蒔付ヲナシ其狀況ヲ調査セリ

蒔付順位	蒔付月日	坪數	蒔付量	稚貝ノ大サ	備	考
A	五、二九	三	三	一鉢ニ 八百八十八個	一尺平方内九十個ノ内死六十個生三十個	
B	全、三〇	二	四	全	全九十八個ノ内死四十八個生五十個	
C	六、一	二	四	全	全七十九個ノ内死三十九個生四十個	
D	全、五	二	四	全	全百個ノ内死三十五個生六十五個	
E	全、一〇	二	四	全	全九十四個ノ内死二十五個生六十九個	
F	全、一五	二	四	全	全九十個ノ内死二十個生七十個	
G	全、二〇	三	三	全	全部強壯ニシテ斃死ナシ	
H	全、二一	二	四	全	全	

I	全、二二	二	四	全	全
J	全、二三	二	四	全	全
K	全、二四	二	四	全	全
L	全、二五	二	四	全	全

右表ニ示ス如ク上旬ヨリ中旬迄ハ微々之レヲ認メタルモ二十日以後ハ全ク被害ノ影響ヲ認メス依テ六月二十五日ヲ春季被害停止期トナシ縣下各關係漁業組合ニ之ノ旨通牒シ一般當業者ノ種貝壽付ヲ勵行セリ

一、秋季被害經過

十月十日杵島郡地先ニ於テ始メテ被害ノ兆候ヲ認メ引續キ同月十五日ヨリ二十日ニ及ヒ激甚ヲ極メ煙ハ泥上ニ浮出シ斃死スルモノ多ク約三分ノ一ノ死貝ヲ見ルノ慘害ヲ被リタルニ二十日後ニ至リ漸次恢復シ全月末ニハ畧ホ終熄スルニ至レリ然ルニ藤津郡地先一帯ニ在リテハ何等被害ノ兆候ヲ認メス煙ハ産卵後ト雖モ皆元氣良好ニ棲息セルヲ認メタリ

一、煙發生地ニ於ケル底質研究

大正六年度ニ於テ煙種貝ノ被害ニ對スル底質關係ヲ試驗センカ爲メニ鹿島川尻俗稱「トリツゴモリ」瀉ト稱スル種介發生地ニ砂質床(砂ノ厚サ約五寸)ヲ築造シ普通泥質地トノ被害ノ關係ヲ調査研究シタルニ本年春季被害ニ對スル結果左記ノ如シ

調査地点	一尺平方面積内		備考(平均斃死率)
	棲息數	死貝數	
イ 砂底質ニシテ床稍高シ	四十二個	二個	〇四七
ロ 泥質底	二十九個	十個	三四四
ハ 泥少ク床稍高シ	四十個	十三個	三五五
ニ 泥質	三十三個	十三個	三九五

右表ハ五月二十四日即チ被害ノ最モ猖獗ヲ極メタル時期ノ調査ニシテ其ノ結果ヲ見ルニ砂質底ノ箇處ハ泥質地ヨリ其ノ斃死率少ク泥質地ハ約其ノ七倍六分ニ相當スレドモ更ニ其ノ棲息煙ノ大サニ於テ泥質地ニ劣リ約二割方小形ニシテ其ノ成長ノ悪シキヲ認メタリ

底質別	一尺平方内棲息數	平均体長	備考
普通泥質地	五個	一、三三	軟泥深ク膠ヲ沒ス
砂床	一一個	一、一九	砂五寸乃至一尺ヲ有シ以下泥質
全	一〇個	九七	全
普通泥質地	五個	一、二七	軟泥深ク膝ニ達ス

右表ハ七月中旬即チ春秋兩季被害ヲ經過シタ直後ノ調査ナルヲ以テ棲息數ハ被害ニ對スル歩留ト見ルヘキモノナリ要之ニ前記ニ表ニ依テ見ルニ煙種介ト被害トノ關係ハ底質ノ砂質ナルト普通泥質トニ依リ其ノ影響ニ著シキ相異アリ即チ砂床ハ泥床ニ比シ被害ノ遙カニ少キヲ認ムヘキナリ然レドモ右表ノ如ク其ノ大サニ於テ砂質地ハ泥質地ニ比シ常ニ二、三割劣レルヲ知ルヘシ此レ其ノ成長ニ於テ前者カ後者ニ比シ不適當ナルヲ証スヘキナリ

重要貝類採苗試驗

縣下有明海ニ於ケル重要貝類タル牡蠣、蠣、味六、灰貝等ノ養殖ハ逐年進歩發展シツ、アリト雖モ從テ之レカ種苗タル稚貝ノ供給欠乏ヲ告ケ往々之レカ進展ヲ疎止セントスルノ懼憂アルヲ以テ今ヤ稚貝ノ供給ハ天然發生ニノミ俟タス人爲採苗ノ方法ヲ改良考案シ之レカ供給ノ圓滑ヲ計ルハ緊要事トナヌ依テ前記重要貝類ニ就キ採苗法ノ試驗研究ヲ施行シタリト雖モ未タ試驗中ニ屬スルモノ多ク成績ノ見ルヘキモノナキヲ遺憾トス以下試驗方法並ニ成績ノ概要ヲ記セントス

イ 牡蠣採苗試驗方法

本試驗ヲ從來一般ニ當業者ノ施行セル從建ノ改良ヲ計リ更ニ種場ノ擴張ヲ計ル爲メ從來種場トシテ使用セル添筋以外半瀉地ヲモ利用スル目的ニテ之レニ適スル採苗法ヲ講究シ併セテ之レガ改良ヲ計ルノ主意ヲ以テ主トシテ前年度ノ方法ヲ踏襲シテ施行シタリ其ノ方法及場處ハ左表ノ如シ

建設場所	建設時期	構造及建設方法	數量	備考
新床 藤津郡濱川尻大 試驗地 潮時約一週間露 出床泥砂質	六月上旬	素燒土管(徑一尺長二尺五寸)一組四本ヲ井桁 狀ニ組ミ合ス	三十四組百三十六 個	廢棄土管ニシテ廢 物ヲ利用ス

前記各種採苗試験ハ時々其ノ経過ヲ調査シ主トシテ附着發育狀況或ハ潮流日光等ノ關係ヲ各種方法ニ就キテ調査研究ヲナス以下其ノ成績ノ概要ヲ述フヘシ

イ 牡蠣採苗試験成績

採苗装置後十日頃ニハ既ニ粟粒大ノ種苗附着セルヲ認メ漸次發育シ約一ヶ月内外ニ達セハ漸ク住ノ江蠣トシカメ牡蠣トノ區別ヲ認メ得ルニ至ルヘシ概シテ其ノ期ニ達スル迄ハ浮泥、光線或ハ害敵等ノ爲メニ斃死スルモノ多キモ以後ハ斃死者モ少ク順潮ナル發育ヲナス

種苗當時ニ於ケル發育成長度ヲ示セハ左ノ如シ(但シ住ノ江蠣ト認ムルモノトス)

経過日数	体長	体巾	経過日数	体長	体巾
十九日	二分内外	全	四日	八分内外	全
二十四日	四分内外	三分内外	十日	一寸内外	九分内外
三十日	五分内外	五分内外	十日	一寸七分内外	全

各試験地ニ於ケル各種採苗方法ニ依ル成績ハ左ノ如シ

建設場所	採苗方法	採收種苗量	大サ(一升容量)	備考
新床試験地	牡蠣殻	住ノ江蠣 六三〇	住ノ江蠣 六〇	牡蠣殻一樽ニ付キ
鳴神試験地	全	牡蠣 二六〇	牡蠣 五五	一升五分ノ割
舊試験地	全	合計 七五〇	牡蠣 六三	六合ノ割
新床試験地	土管	二〇〇	全	全五分ノ割
全	屋根型及蒔型内ニ牡蠣殻ヲ入レタルモノ	一〇八	全	土管一本ニツキ 三升余ノ割
全	全上牡蠣殻ヲ入レサルモノ	九〇	全	篋竹一本ニツキ 一合余ノ割
全	普通築堤	二一〇	全	全六分ノ割
全	築堤(各種類ヲ含ム)	七〇	全	全五分ノ割
鳴神試験地	全	一〇〇	全	全四分ノ割
舊試験地	全	一五〇	全	全

要之最初附着シタル種苗モ約一ヶ月當時迄ハ害敵或ハ浮泥等ノ爲メニ被害ヲ受ケ斃死スルモノ夥シク以後ハ大ナル變化ナク發育ヲ見ルモ所謂シカメ牡蠣ト住ノ江蠣トノ差別ヲ認ムル頃ヨリ住ノ江蠣ノ成長前者ニ比シテ著シク尙九月ニ於テ調査シタルニ各装置共約半數ヲ占ムルヲ見タルモ以後住ノ江蠣ハ成長著シク斃死スルモノ殆ト皆無ナルニ拘ラスシカメ成長遅鈍ナルノミナラス尙浮泥ノ被害著シク斃死スルモノ不尠前記ノ如キ結果見ルニ至レルナリ尙前記ノ試験ノ結果ヲ綜合シ牡蠣採苗方法ノ各種類ニ就キ之レカ成績並ニ優劣ヲ約言セハ左ノ如シ

- 土管採苗... 牡蠣殻採苗ト共ニ廢物利用ノ点ト相俟テ平瀉地採苗装置トシテ稍々成績ノ見ルヘキモノアリ尙左ノ諸点ヲ研究改良ヲ施スニ於テハ相當有利ナルモノタルヘシ
- 土管ノ表面及内部兩端ニ近キ部分ハ潮流ノ疎通良好ニシテ浮泥ノ害ヲ蒙ル事僅少ニシテ種苗ノ附着佳良ナルモノ内部中央ハ潮流疎通宜シカラス往々浮泥堆積シテ種苗ノ死滅ヲ來スヲ見ル
- 前記ノ理由ニ依リ配置方法ヲシテ可然潮流ノ疎通ノ良好ナルヲ計リ且ツ浮泥ニ埋没セサル装置ヲ施スヲ要ス
- 附着シタル種苗ノ脫離作業困難ナレハ之レニ對シテ手段ヲ施スヲ必要トス
- 牡蠣殻採苗... 前者ト共ニ平瀉地採苗法トシテ稍々見ルヘキモノアリ殊ニ前述ノ如クシカメ牡蠣ニ對シ住ノ江蠣ノ附着最モ良好ナルヲ試験シ得タルハ尙左ノ諸点ヲ研究改良セハ有利ナルモノトタリ得ヘカラン
- 牡蠣殻ノ凹所及各間隙ニ浮泥ノ堆積スル事多ク僅ニ外面ノミ潮流ニ洗ハレ他ハ浮泥ニ埋没スル恐アルヲ以テ時々轉換シテ浮泥ノ堆積ヲ防止スルヲ要ス
- 其ノ構造ノ示ス如ク瀉上ニ牡蠣殻ヲ堆積シタルモノナレハ害敵ノ襲撃夥シク其ノ被害輕視スヘカラサルモノアリ
- 一二述ヘタル如ク外面ハ潮流ニ洗ハレ浮泥ノ堆積少キモ尙上面中央部ハ兩側面等ニ比シ浮泥堆積シ易ク附着シタル種苗ノ死滅セルモノ多シ故ニ幅員ヲ狭カラシメ又高サヲ高カラシメ以テ浮泥ノ堆積ヲ防キ附着面ヲ大ナラシムレハ一増有利ナルト認ム

- 附着シタル種苗ノ脫離作業困難ナレハ或ル程度迄脫離セシメ他ハ附着ノマ、蒔付ヲナスヲ要ス
- 屋根型及蒔型築堤採苗... 築堤採苗ハ何レモ成績不良ニシテ見ルヘキモノナク殊ニ舊試験地及鳴神試験地等新床試験地ニ比シ瀉高キ地ハ更ニ成績不良ナルヲ見タリ唯々本試験ノ主要目的タル陰影及潮流等ノ關係ニ就テハ左ノ結果ヲ知り得タリ
- シカメ牡蠣ハ比較的外部ニ附着多ク住ノ江蠣ハ内部陰所ニ多キモ潮流ノ疎通惡シク又浮泥害敵等ノ爲メニ斃死スルモノ多

ク成ハ成長遅鈍ナリ

二 内外共「ふちつば」ノ着生夥シク牡蠣種苗ノ附着ヲ害スルコト著シ普通築建採苗……前者ト同様ふちつばノ着生夥シク牡蠣種苗ノ附着更ニ見ルヘキモノナク斯ノ如キ高瀉地ニ於テハ効ナキヲ証スルモノナランカ

味六貝採苗試験成績

前年度ニ於テ稍々成績ノ見ルヘキモノアリシヲ以テ繼續施行シタルニ本年ハ各種方法共全然失敗ニ歸シ何等成績ノ見ルヘキモノナク其ノ効果ヲシテ疑問ニ陥ルノ止ムナキニ至レルヲ遺憾トナス然レトモ其ノ失敗ノ原因ニ就テハ種々調査シタルモ遂ニ未タ確適ト認ム可キモノヲ發見セサルヲ恨ミトナス以下少シク前年及本年ノ兩年度ニ於ケル築建方法其ノ他ノ狀況ヲ比較列記シ他日ノ研究ノ資ニ供セントス

六年度試験調査事項

- 一、築ノ構造及建込ミ方法……長サ三尺ノ九竹ノ上部一尺ノ箇處ニ長サ一尺乃至一尺五寸ノ棕栂毛皮ヲ卷キニク處ヲ結繩ス
 - 二、築ハ棕栂毛皮ノ下部カ地上ニ接スル程度ニ地中ニ挿込ミタリ
 - 一、建込ミ場所……新床試験地ニシテ底質泥砂質ニシテ足首ヲ没スル程度ノ軟度トス附近一帶ニ蝸、鳥貝、味六貝ノ天然繁殖アリ
 - 一、建込時期……五月下旬、六月上旬、中旬、七月上旬ノ四回トス
 - 一、天然發生狀況……採苗地附近ハ年々多少ノ發生アリ天然發生狀況ハ年々ヨリ豊凶不定ナルモ稍々良好ノ發生ヲ見タリ
 - 一、其ノ他ノ狀況……七月ニ入り著シク鳥貝ノ種苗附着シ七月下旬ニ於テ粟粒大ノ味六貝種苗ノ附着ヲ見タリ又附近ちめき筭等ニモ多少之レカ附着セルヲ發見シタリ
- 本年度試験調査事項
- 一、築ノ構造及建込方法……構造ハ前年度ノ如シ建込方法ハ前年往々浮泥ノ爲メニ築ノ埋没スルノ恐アリタレハ之レヲ防ク爲メニ半數ハ前年同様ニ他ハ約二三寸高ク建込ヲナス
 - 一、建込場所……前年ノ隣接地ニシテ底質其ノ他變化ナシ
 - 一、建込時期……作業ノ都合ニテ六月上旬一回ノミトス

一、天然發生狀況……前年ト大差ナキモ稍々不良ナリト認ム

一、其他ノ狀況……鳥貝、蝸等ノ種苗附着殆ト皆無ナリ又附近鳥貝棲息場内ニハ相當發生ヲ見タルニ不拘附近ノ古筭等ニ附着セルモノ僅少ナリ

八 網採苗試験成績

前年度ニ於テ網ノ種苗モ平滑ナル一般ノ海面ヲ粗雜ナラシムルノ方法ヲ施シ且ツ種苗ノ附着物ヲ與フルニ於テハ採苗上効果アルヲ認メ繼續シテ之レカ小規模ナル試驗ヲ施行シタリシモ未タ成績ノ見ルヘキモノナク尙研究ヲ要スル所ナリ

十月上旬各採苗装置ニ付キ發生狀況ヲ調査シ附近普通箇處(天然ニ多少ノ發生アリ)ト比較シタルニ左ノ如シ

裝置種類	棲息個數	體長	體巾	容量	普通箇地
網殼	一〇	三分一厘	二分	一五六〇個	九個
鳥貝	一〇	全	全	全	全
網殼及ちめき殼	一七	全	全	全	全

右表ニ示ス如ク普通地ニ於テハ一尺平方面積中ニ平均九個ヲ數フルニ對シ採苗地ニ在リテハ最少十個最多十七個ニシテ未タ充分効果ヲ見タリト云フ可カラサルモ貝殼等ヲ混入スルコトガ種苗附着物トシテ全然必要ナルヤ否ヤハ尙疑問トスルモ地底面ヲ粗雜ナラシメ種苗發生上多少ノ効果ヲ認メ得ヘキヲ以テ更ニ之レカ改良ヲ加ヘ試驗ヲ繼續セントス

重要貝類養殖試驗

一 蛎養殖成長度試験

蛎養殖ハ近年春秋兩期ニ襲來スル所謂被害ノ爲メ一時全然衰退シタリシモ近時此レカ消極的養殖即チ春季被害停止後六月乃至七月中稚貝ノ蒔付ヲナシ秋季被害發生前九月乃至十月ニ收納スル短期養殖方法ヲ講スルニ至リ再ヒ稍々斯業ノ復興ヲ見ルニ至レリ斯ク短期間ノ養成ニアルヲ以テ其ノ成長度ハ面積ニ對スル放棄率ニ至大ノ關係ノ存スルハ明カナリ因テ之レカ基準ヲ示サンカ爲メニ本試驗ヲ施行セリ其ノ成績ノ概要左ノ如シ

放棄時ノ狀況

調査月日	蔦付面積	蔦付數量	平均體長	體中	一升容量	備考
六月二十日	二坪	四升	一、〇五	二七	六三〇個	
全	全	全	全	全	全	
六月廿一日	全	三升	全	全	全	
全	全	全	全	全	全	
六月廿二日	全	二升	全	全	全	
全	全	全	全	全	全	
六月廿六日	全	五升	全	全	全	

七月中成長度調査

調査月日	蔦付面積	蔦付數量	平均體長	體中	一升容量	備考
七月廿六日	二坪	四升	一、七〇	三〇	一八〇個	放養後三十六日
全	全	全	全	全	全	放養後三十五日
全	全	三升	一、八〇	全	全	
全	全	二升	一、七〇	全	全	
全	全	五升	一、六〇	全	全	

九月中成長度調査

調査月日	蔦付面積	蔦付數量	平均體長	體中	一升容量	備考
八月廿五日	二坪	四升	二、〇〇	四五	一二〇個	
全	全	三升	二、二〇	五〇	八〇〇	
九月三日	全	三升	二、二〇	五〇	八〇〇	
全	全	二升	二、四五	五五	五五〇	
九月十八日	全	二升	二、四五	五五	五五〇	

右表ヲ見ルニ最小ハ坪二升蔦ニシテ放養後六十五日ニテ體長一倍九分強體中一倍六分強一升容量ニ於テ五倍強ノ成長ヲ見最
大ハ坪一升蔦ニテ放養後八十二日ニテ體長二培三分強體中二培強一升容量ニ於テ十一倍強ノ成長ヲ示セリ

網放養量對成長度比較試驗

近時殊ニ藤津郡地先ニ於テ網養殖ノ有望ナルニ着眼シ漸次發展ノ曙光ヲ認メタルモ未タ放養法ノ適從スル所ヲ知ラス殊ニ其
ノ放養量ニ對シテハ空シク過剩ノ放養ヲ競ヒ單ニ採收量ノ多カラシム事ヲノミ願念スレトモ之レ更テ其ノ個々ノ成長増大ヲ遲
緩ナラシメ結果増量率ノ多キヲ致ス以所ニ非ルヲ以テ之レカ適當ナル放養量ヲ決定センカ爲メ左ノ試驗ヲ爲ス

放養時ノ狀況

放養月日	放養面積	放養數量	平均體長	體中	一升容量
六月九日	一坪	一升	七一	一八	八三九
全	全	全	全	全	全
全	全	二升	全	全	全
全	全	三升	全	全	全
全	全	四升	全	全	全
全	全	五升	全	全	全
全	全	六升	全	全	全

右試驗ハ新床試驗地ニシテ種貝ハ附近鹽田川尻天然發生場産ノモノトス

蔦付後ニ於ケル成長度調査

調査月日	平均體長	平均體中	平均重量	一升容量	備考
八月卅一日	九〇	三〇	一二五〇	三二四	蔦付後五十三日
九月三十日	一二〇	三五	一六〇〇	二〇〇	全 八十三日
十月廿五日	一三〇	三七	一九〇〇	一七〇	全 百八日
十一月二十日	一四〇	三九	二〇〇〇	一五二	全 百二十八日
十二月廿四日	一五〇	四〇	二、三〇〇	一四五	全 百五十二日

右表ヲ見ルニ放養後八十四日ニシテ體長約一倍七分體中約二培一升容量ニ於テ約四倍ノ成長ヲ來シ何レモ順潮ナル成長ヲ認
メタルモ本試驗ノ目的ニ對シテハ坪當放養量一升乃至六升ノ相違ニ就テハ格段ノ認ム可キ成長度ノ遲速ナキヲ示スト雖モ之
レヲ以テ今俄ニ論斷シ能ハサルヲ以テ尙繼續試驗ニ依リテ之レカ研究ヲ鮮明セントナス

牡蠣養成試驗

本試驗ハ大正五年度來繼續施行シタル處ニシテ住ノ江牡蠣及方言シカメ牡蠣ノ養成試驗ニシテ住ノ江牡蠣ハ主トシテ底質ノ
關係即チ左記ノ如キ軟泥地或ハ砂泥質地及鳥貝床(瀉地ニ鳥貝ヲ繁殖セシメタルモノ)ノ三種ノ底質ニ於テ養成試驗ヲナシ依
テ以テ養殖方法ノ改良並ニ養殖場ノ擴張ヲ期セントシ又所謂シカメ牡蠣ハ從來何等利用サル、處ナク殆ト放棄サレアリシヲ

以テ之レカ利用養成試驗ヲモ施行セントスルモノナリ左ニ其ノ成績ノ概要ヲ表記スヘシ

場所	底質	待付年月	待付量	採收年月	採收量	増量率	備考
新床試験地	砂泥質	大正六年十一月	二六	大正七年八月	三四	一、三	(住ノ江杜蠅)大正五年十二月稚貝五樽放養シ全六年十一月採收調査再放養
全	全	全	一四				
全	全	全	五六				(全)大正六年稚貝十六樽ヲ放養全年十一月採收調査再放養
全	全	全	三三				(全)一樽ニ三百四十個人稚貝
鳴神試験地	軟泥質	全 七月	一三	全 九月	五〇	一、五	(全)大正五年十二月稚貝三樽放養六年十一月調査再放養
全	全	全 十一月	六		三八	二、九	(全)大正五年十二月稚貝三樽放養六年十一月調査再放養
全	全	全	九		一〇	一、六	(全)大正五年十二月稚貝三樽放養六年十一月調査再放養
全	砂質	全	九		二九	三、二	(全)大正五年十一月調査再放養
全	全	全	九		三〇	三、三	(全)大正五年十二月稚貝三樽放養六年十一月採收調査再放養

重要貝類發生調査

本年ニ於ケル發生狀況ハ例年ニ比シ一般ニ僅少ニシテ五月中旬ヨリ各處共被害ノ發生ヲ見六月下旬ニ及ホシ漸次停止シタルニ約發生數ノ三分ノ二内外ノ斃死ヲ見タルカ如シ尙詳細ハ蠅被害調査ノ項ニ記載セルヲ以テ此處ニハ略ス

牡蠣

採苗試驗ノ結果ハ概要前記ノ如クナルモ尙一般ノ狀況ヲ見ルニ西部佐賀郡地先ニ種苗ノ發生附着豊富ニシテ從テ牡蠣築建盛ニ中ニモ筑後川、早津江川、六角川尻等ニシテ次第ニ東部ニ向テ減退シ藤津郡ニ在リテハ鹽田川尻ニ僅カニ見ルノミニシテ既ニ濱川尻ニアリテハ牡蠣築建ハ皆無ノ狀態ニアリ而シテ本年發生附着ノ狀況ハ例年ト大差ナク各處共相當ノ附着ヲ見タリ又附着時期ニ就テモ例年ト大差ナキモ東部ハ西部ニ比シ常ニ遅ク半月ノ差ヲ見ル而シテ住ノ江蠅ト所謂シカメ蠅ノ發生附着ハ主トシテ地底ノ高低(海水鹹度及乾燥其他ノ關係)ニ依リ相違ヲ見ルモ前記ノ如ク發生ノ早キ箇處並ニ發生ノ初期ニ於テ殊

ニシカメカキノ附着多キヲ認メタリ

蜆貝

有明海ニ於ケル發生地ノ重要ナルモノハ鹽田川、鹿島川及濱川尻ノ地先ニシテ從來ハ單ニ川尻落筋附近ノ小區域ニ發生シタルノミニナリシモ近年蜆養殖業ノ隆盛トシテ養殖ノ衰退トニヨリ底質ノ變化ヲ來シ逐年稚貝ノ發生區域ヲ増加シツ、アリト雖モ例年盛夏ノ候及初夏雨季ニハ其ノ大部分斃死シ殘存貝ハ比較的僅少ナルノ狀況ニ在リ

味六貝

有明海ニ於ケル發生狀況ハ年々減退ノ傾向アリテ本年發生狀況ハ前年ト大差ナキモ例年佐賀郡地先ニ豊産シ藤津、杵島郡之レニ次クノ狀態ナリシモ本年ハ佐賀郡地先ハ稍々發生僅少ナルヲ見タリ

海苔

佐賀郡大託間地村先、早津江川、大川尻及藤津郡地先ニ於テハ例年相當發生ヲ見レトモ其ノ成育ヲ俟タスシテ濫獲シ絶スヲ例トス本年ニアリテモ發生シタルモノ夥シク成長モ良好ナリシカ五、六七月頃迄ニ殆ト捕獲シ殘存セルモノ極メテ僅少ナリ

玉珧貝

本年發生シタルモノハ頗ル夥シク藤津郡鹿島八本木地先沖合ちめシ養殖場附近ヲ中心トシ近年稀ノ繁殖ヲ見冬季漁業者ノ採捕スルノ多額ニ上レリ

烏貝

杵島、藤津郡地先ハ逐年蠅、牡蠣ノ養殖隆盛ニ向ヒ漸次養殖場モ擴大セラレ從テ養殖ニ防害タル烏貝ハ次第ニ除去絶滅ヲ促シ或ハ又肥料及製造原料トシテ採捕サル、モノ夥シク年々繁殖ノ減退ヲ見ツ、アリ

大正七年氣象觀測表

(藤津郡役所測候)

月次旬	最高氣	最低氣	平均溫	日數	降雨量	風向	風力	摘要
四月上旬	一七、四	七、五	一三、四	六	四七、〇	東	一、三	五、六、七、八、九、十日時々降雨
中旬	一三、一	六、二	一四、七	一	一	西	一、三	二〇日微雨

大正七年度新床定期観測

Table with columns for Date (年月日), Time (時刻), Moon Phase (月齢), Surface Temperature (表面水温), Bottom Temperature (海底水温), Surface Specific Gravity (表面比重), Bottom Specific Gravity (海底比重), Air Temperature (気温), Cloudiness (雲量), Wind Direction (風向), Wind Force (風力), Transparency (透明度), Tide (潮候), Current Direction (潮流方向), Current Speed (流速), Current Depth (水深), and Plankton (プランクトン). Rows include dates like 五、一八、三〇 and 六、二二、三〇.

Table with columns for Date (年月日), Time (時刻), Moon Phase (月齢), Surface Temperature (表面水温), Bottom Temperature (海底水温), Surface Specific Gravity (表面比重), Bottom Specific Gravity (海底比重), Air Temperature (気温), Cloudiness (雲量), Wind Direction (風向), Wind Force (風力), Transparency (透明度), Tide (潮候), Current Direction (潮流方向), Current Speed (流速), Current Depth (水深), and Plankton (プランクトン). Rows include dates like 五、一八、三〇 and 六、二二、三〇.

養鰻試驗

本試驗ハ養鰻業ノ經濟試驗ヲ施行シ試賣ヲナスト共ニ模範獎勵ノ材料タルヘキ諸般ノ基礎研究ヲナサンカ爲メ本年度ヨリ本場附屬淡水養魚池大池第二號ノ一部面積四百一十坪ヲ區畫シテ實施セルモノニシテ其ノ經過及成績左ノ如シ

- 一、放養月日及數量 六月 參拾貫 十月 拾五貫白匁
- 二、放養時ノ大サ 一尾 自五匁至十匁 十月以後 百拾匁弱
- 三、放養坪當リ 十月迄 七拾參匁弱 大正七年六月九日ヨリ八年六月十七日マテ二百七十九日間
- 四、飼養日數 大正七年自六月十日至十月三十一日百五十三日間
- 五、給餌日數 田螺 十六石五斗 此代金四拾九圓五拾錢
- 六、給餌量 干鰯 五十三貫白匁 此代金拾九圓六拾四錢
- 七、生産數量 八貫五百匁(一尾十五匁以上)此代金四拾五圓六拾四錢

十三貫匁(一尾十五匁以下)此代金見續四拾五圓五拾錢
但シ一尾十五匁以下ノモノハ翌年度ニ繰越セルモノナリ

要スルニ本試驗ハ造池工事竣工運延ノ爲メ鰻兒放養期遅レシモ其ノ成長度ハ割合ニ良好ニシテ一尾十五匁以上五十匁ニ達セルモノアリシモ七月六日ノ大雨ニヨリ大池第二號堤防缺損シ増水ト共ニ鰻池堤防ノ浸水ニヨリ遂ニ同池汎濫スルニ至リハ割余逃逸シ好結果ヲ得ル能ハサリキ

第一回 採卵孵化表

親魚配合	配合月日	産卵月日	孵化月日	孵化ニ要セシ日數	採卵數	孵化數	孵化率
雌雄	四月廿四日	四月廿五日	五月一日	七日間	400,000粒	300,000尾	七割五分

親魚測定表

雌雄	身長	体高	目方	雌雄	身長	体高	目方
全	一四一	三九	二〇〇	全	二二〇	二七	一八〇
全	一四二	三九	二〇〇	全	二二〇	二七	一八〇
雄	一三三	三三	一八〇	全	二二〇	二七	一八〇
全	一三〇	三三	一八〇	全	二二〇	二七	一八〇
全	一三五	三三	一八〇	全	二二〇	二七	一八〇
全	一四五	四五	二四〇	全	二二〇	二七	一八〇
全	一八〇	五〇	二八〇	全	二二〇	二七	一八〇
全	一九五	四五	二四〇	全	二二〇	二七	一八〇
全	一七五	四二	二〇〇	全	二二〇	二七	一八〇
雌	一七五	四二	二〇〇	全	二二〇	二七	一八〇

第二回 採卵孵化表

雌雄	身長	体高	目方	雌雄	身長	体高	目方
全	一三〇	三〇	一八〇	全	二二〇	二七	一八〇
全	一三〇	三〇	一八〇	全	二二〇	二七	一八〇
雄	一五〇	三三	二〇〇	全	二二〇	二七	一八〇
全	一五〇	三三	二〇〇	全	二二〇	二七	一八〇
全	一五〇	三三	二〇〇	全	二二〇	二七	一八〇
全	一九〇	四三	二四〇	全	二二〇	二七	一八〇
全	一九八	四三	二四〇	全	二二〇	二七	一八〇
全	一九〇	四三	二四〇	全	二二〇	二七	一八〇
雌	一九〇	四三	二四〇	全	二二〇	二七	一八〇

親魚測定表

親魚配合 雌雄 三雄 一雌	配合月日 六月八日	產卵月日 六月九日	孵化月日 六月十三日	孵化ニ要 セシ日數 五日間	採卵數 三〇〇,〇〇〇粒	孵化數 三五,〇〇〇尾	孵化率 七割五分
------------------------	--------------	--------------	---------------	---------------------	-----------------	----------------	-------------

雌雄	體長	體高	目方	雌雄	體長	體高	目方
全雄	二一、〇	二、七	二〇〇	全雄	二一、八	二、七	二〇〇
全雌	二〇、〇	二、七	二〇〇	全雌	二一、〇	二、七	二〇〇
全雄	二〇、〇	二、七	二〇〇	全雄	二一、〇	二、七	二〇〇
全雌	一八、〇	二、七	二〇〇	全雌	二一、〇	二、七	二〇〇

第一回孵化氣象觀測表

月日	天候	氣温	水温	風向	風力	氣温	水温	風向	風力
四月廿四日	晴	八、〇	二五、五	北	和	二〇、五	二四、〇	西	和
同廿五日	雨	八、〇	二五、五	北	和	二〇、五	二四、〇	西	和
同廿六日	曇	八、〇	二五、五	北	和	二〇、五	二四、〇	西	和
同廿七日	曇	八、〇	二五、五	北	和	二〇、五	二四、〇	西	和
同廿八日	曇	八、〇	二五、五	北	和	二〇、五	二四、〇	西	和
同廿九日	曇	八、〇	二五、五	北	和	二〇、五	二四、〇	西	和

親魚配合
午後八時放卵全十一終了

稀ニ發眼ヲ認ム

稀ニ孵化ス

五月三十日	曇後雨	九、〇	二七、〇	西	全	一九、〇	二五、〇	西	和
-------	-----	-----	------	---	---	------	------	---	---

約半數孵化ス

午後二時孵化シ終ル

月日	天候	氣温	水温	風向	風力	氣温	水温	風向	風力
五月二日	晴	八、〇	二六、〇	西	全	三、五	二六、〇	西	軟
同三日	晴	八、〇	二六、〇	西	全	三、五	二六、〇	西	軟
同四日	曇後雨	八、五	二〇、〇	南	強	一九、〇	二七、〇	全	軟
同五日	曇後雨	八、五	二〇、〇	南	強	一九、〇	二七、〇	全	軟
同六日	曇後雨	八、五	二〇、〇	北	強	一九、五	二五、〇	全	烈
同七日	曇後雨	八、五	二〇、〇	北	強	一九、五	二五、〇	全	烈
同八日	晴	二、五	二七、〇	東	全	二、五	二五、〇	全	和
同九日	曇後雨	二、五	二七、〇	東	全	二、五	二五、〇	全	和
同十日	曇	四、〇	二五、〇	北	全	二、〇	三、五	全	強
同十一日	曇後雨	四、〇	二五、〇	北	全	二、〇	三、五	全	強
同十二日	曇後雨	四、〇	二五、〇	北	全	二、〇	三、五	全	強

親魚配合
午前四時放卵全六時終ル

稀ニ發眼ヲ認ム

稀ニ孵化ス

正午約半數孵化ス

夕刻全部孵化シ終ル

稀ニ孵化ス

午前六時半數孵化ス

午後二時全部孵化シ終ル

月日	天候	氣温	水温	風向	風力	氣温	水温	風向	風力
五月八日	晴	八、五	二四、〇	西	軟	二〇、〇	三、五	北	和
同九日	曇後雨	三、五	二七、〇	北	無	一六、五	一八、〇	全	強
同十日	曇	四、〇	二五、〇	全	軟	一九、〇	二〇、〇	全	強
同十一日	曇後雨	九、〇	二四、五	全	軟	一九、五	三、〇	全	強
同十二日	曇後雨	一〇、〇	二六、〇	全	軟	二〇、〇	三、〇	全	強
同十三日	曇後雨	一三、〇	二七、〇	全	軟	二一、五	三、五	全	強

親魚配合
午前六時放卵正午終ル

稀ニ發眼ヲ認ム

稀ニ孵化ス

午後九時放卵

午前五時產卵終ル

月日	天候	午前	午後	二時	摘	要
同十四日	晴後曇	氣温 一三、〇	水温 一四、五	風向 西	無	無
同十五日	晴	氣温 九、五	水温 一五、〇	風向 北	無	無
同十六日	晴後曇	氣温 九、五	水温 一七、〇	風向 東	無	無
同十七日	雨	氣温 二、五	水温 一八、〇	風向 北	軟	無
同十八日	晴	氣温 二、五	水温 一六、〇	風向 南	無	無

午前九時稀ニ孵化ス
 ○稀ニ眼点ヲ認ム
 午後五時全部孵化シ終ル
 ○午前九時稀ニ孵化ス
 午後四時全部孵化シ終ル

第四回孵化氣象觀測表

月日	天候	午前	午後	二時	摘	要
五月十三日	晴後曇	氣温 一三、〇	水温 一七、〇	風向 南	軟	無
同十四日	全	氣温 一三、〇	水温 一四、五	風向 西	無	無
同十五日	晴	氣温 九、五	水温 一五、〇	風向 北	無	無
同十六日	晴後曇	氣温 九、五	水温 一七、〇	風向 東	全	無
同十七日	雨後曇	氣温 一四、五	水温 一八、〇	風向 北	軟	無
同十八日	晴	氣温 一三、五	水温 一六、〇	風向 南	全	無
同十九日	雨	氣温 一六、〇	水温 一七、〇	風向 北	全	無
同二十日	晴	氣温 三、五	水温 一七、五	風向 東	全	無
同廿一日	全	氣温 九、五	水温 一六、五	風向 北	全	無
同廿二日	全	氣温 一、〇	水温 一七、〇	風向 西	全	無
同廿三日	曇後晴	氣温 一七、〇	水温 二〇、五	風向 西	全	無

親魚配合
 午後九時放卵同十一時終ル
 午前三時放卵同五時終ル
 ○親魚配合
 午後八時放卵同十時終ル
 ○稀ニ眼点ヲ認ム
 午前四時放卵同六時終ル
 夕刻稀ニ孵化ス
 ○稀ニ眼点ヲ認ム
 午後五時全部孵化シ終ル
 午前十一時稀ニ孵化ス
 正午全部孵化シ終ル

第五回孵化氣象觀測表

月日	天候	午前	午後	二時	摘	要
同廿四日	晴後曇	氣温 一三、五	水温 一八、〇	風向 西	無	無
同廿五日	全	氣温 一五、五	水温 二〇、〇	風向 北	全	無
同廿六日	雨後曇	氣温 一七、〇	水温 二〇、〇	風向 全	全	無
同廿七日	晴後曇	氣温 一六、五	水温 一九、五	風向 全	全	無
同廿八日	曇後晴	氣温 一八、〇	水温 二二、五	風向 全	全	無
同廿九日	晴	氣温 一五、〇	水温 一九、〇	風向 全	全	無

親魚配合
 午前四時放卵同九時終ル
 午前八時稀ニ孵化ス
 午後五時全部孵化シ終ル

第六回孵化氣象觀測表

月日	天候	午前	午後	二時	摘	要
五月廿七日	晴後曇	氣温 一六、五	水温 一九、五	風向 北	無	無
同廿八日	曇後晴	氣温 一八、〇	水温 二〇、〇	風向 全	全	無
同廿九日	晴	氣温 一七、五	水温 一九、〇	風向 全	全	無
同三十日	全	氣温 一七、五	水温 二〇、〇	風向 全	全	無
同卅一日	雨	氣温 一九、〇	水温 二〇、〇	風向 南	疾	無
六月一日	曇	氣温 一九、五	水温 二〇、〇	風向 東	無	無

親魚配合
 午前四時放卵全六時終ル (親魚配合)
 稀ニ眼点ヲ認ム (午前四時放卵同七時終ル)
 正午稀ニ孵化ス (稀ニ眼点ヲ認ム)
 午後五時全部孵化シ終ル
 (午前七時稀ニ孵化ス)
 (午後五時全部孵化シ終ル)

第七回孵化氣象觀測表

第八回孵化氣象觀測表

月日	天候	午前六時	午後二時	摘	要
六月一日	曇	氣温 一九、五 水温 二二、〇	氣温 二二、〇 水温 二七、〇	親魚配合	午前三時放卵同五時三十分終ル(親魚配合) 稀ニ眼点ヲ認ム(午前六時放卵同九時終ル) (午前八時稀ニ孵化ス(稀ニ眼点ヲ認ム)) (午前十時稀ニ孵化ス) 午後四時全部孵化シ終ル (午後四時全部孵化シ終ル)
六月二日	雨後曇	氣温 二〇、〇 水温 二二、〇	氣温 二〇、五 水温 二七、〇	親魚配合	
六月三日	曇	氣温 二〇、〇 水温 二二、〇	氣温 二〇、五 水温 二七、〇	親魚配合	
六月四日	全	氣温 二〇、〇 水温 二二、〇	氣温 二〇、五 水温 二七、〇	親魚配合	
六月五日	全	氣温 二〇、〇 水温 二二、〇	氣温 二〇、五 水温 二七、〇	親魚配合	
六月六日	曇	氣温 二〇、〇 水温 二二、〇	氣温 二〇、五 水温 二七、〇	親魚配合	
六月七日	曇	氣温 二〇、〇 水温 二二、〇	氣温 二〇、五 水温 二七、〇	親魚配合	

第九回孵化氣象觀測表

月日	天候	午前六時	午後二時	摘	要
六月八日	雨後雨	氣温 二一、〇 水温 二二、〇	氣温 二二、〇 水温 二七、〇	親魚配合	午前六時放卵全八時終ル 午前四時放卵全六時終ル 稀ニ眼点ヲ認ム 午前十時稀ニ孵化ス 午後六時全部孵化シ終ル
六月九日	雨	氣温 二一、〇 水温 二二、〇	氣温 二二、〇 水温 二七、〇	親魚配合	
六月十日	雨	氣温 二一、〇 水温 二二、〇	氣温 二二、〇 水温 二七、〇	親魚配合	
六月十一日	雨	氣温 二一、〇 水温 二二、〇	氣温 二二、〇 水温 二七、〇	親魚配合	
六月十二日	雨	氣温 二一、〇 水温 二二、〇	氣温 二二、〇 水温 二七、〇	親魚配合	
六月十三日	晴	氣温 二一、〇 水温 二二、〇	氣温 二二、〇 水温 二七、〇	親魚配合	
六月十四日	晴	氣温 二一、〇 水温 二二、〇	氣温 二二、〇 水温 二七、〇	親魚配合	

第十回孵化氣象觀測表

製造部

貝類干製試驗

有明海方面ニ於ケル養殖貝類ハ主トシテ乾製品トナシ支那方面ニ輸出サレツ、アリテ近年養殖業ノ發展ト共ニ該製品ノ輸出額モ亦激増シ本縣水産貿易品中重要ナル位置ヲ占ムルニ至レリト雖モ往々ニシテ製品ノ粗悪統一ヲ欠キ之レカ聲價ヲ下落セシムルノ恐ナキニ非ストナス依テ之レカ製造法ノ改良製品ノ統一ヲ圖ランカ爲メニ必要ナル試驗指導ヲナサントス

本年度ニ於テハ左記重要種類ヲ撰定シ之レカ基本的製造試驗ヲ施行シ製品ノ改良統一ヲ圖ラントス

一、煙干製試驗

材料 大正七年六月下旬舊試驗地ニ時付養殖セルモノニシテ十月採集シタルモノノ第一回分ハ平均体長二寸七分体巾八分一升容量平均六十一個ノ重量平均六分一分第二回分平均体長二寸九分体巾一寸一升容量平均六十個ノ平均重量五分二分

製法 原料ヲ清水ヲ以テ十分ニ洗滌シ製造釜ニ入レ肉身ト貝殼ト分離スル程度ニ煮熟シ取り出シ肉身ト貝殼トヲ撰別シ清水ニテ洗滌シ汚物ヲ去リ再ヒ煮熟ス煮熟中ハ肉身ノ燒燻變色等生セサル様常ニ攪拌スルヲ要ス

充分ニ煮熟ヲ了シタルモノハ取り出シ筵ニ散布シテ乾燥シタリ

製造經過成績左ノ如シ

第一回煮熟後ノ調査

試驗順位	原料數量	全上重量	肉身數量	全上重量	原料一升ニ對スル製品	備考
一回	100升	3,266g	2,270g	6,550g	27.7g	剝身一升ノ重量二百五十三匁
二回	110升	4,755g	3,000g	8,000g	72.7g	全二百六十六匁

第二回煮熟後ノ調査

試驗順位	肉身數量	全上重量	歩留	原料一升ニ對スル重量	備考
一回	200g	600g	九分三厘強	3.0g	淡水ニテ煮熟ス
二回	250g	750g	八分六厘強	3.7g	鹽水ニテ煮熟ス

乾了後ノ調査

試験順位	製品数量	全上重量	製造歩留	原料一升ニ對スル重量	備考
一回	一三	二五	二分七厘強	一九	日乾十八時間
二回	一七	二七〇	三分五厘強	二四、五	同十九時間

第二回試験分ハ二回目煮熟ニ於テ鹽水ヲ以テ處理シタルニ第一回試験分ニ比シ著シク歩減ヲ見タルモ乾燥製了後歩留成績良好ニシテ原料一升ニ付キ製品重量ニ於テ淡水ニテ處理シタルモノニ比シ約一倍二分余ノ歩留ヲ示セリ

材料 新床試験地養殖二年生貝ニシテ其ノ大サ等左ノ如シ

試験順位	体	長	巾	一升容量	一個平均重量	時期
一回	一寸七分	一寸二分	六八個	六八個	六八個	十月九日
二回	一寸二分	八分	二七個	二七個	一八個	全
三回	一寸一分	八分	二四個	二四個	一八個	十月廿六日

製法 第一回及第二回試験ハ普通當業者ノ施行シツ、アル方法ニシテ原料ハ十分淡水ニテ煮熟シ肉ト貝殼トヲ分離シ更ニ清水ニテ洗滌汚物ヲ去リ直チニ乾燥シタリ

第三回試験ハ第一回ト同様ニ一回煮熟ヲナシ貝殼ト分離シタル肉身ヲ更ニ塩水ニテ煮熟シ後乾燥シタリ

煮熟後ノ調査

試験順位	原料数量	全上重量	剥身数量	全上重量	原料一升ニ對スル重量	備考
一回	一五、〇	六、四〇	二七	八四〇	五九	剥身一升ノ重量三百一十一匁
二回	二〇、〇	八、四〇	五、〇	一、五〇〇	七五	同三百八十四匁
三回	二〇、〇	八、〇〇	三、八	一、二五	六〇	同三百十四匁

乾燥後ノ調査

試験順位	製品数量	全上重量	製品歩留	原料一升ニ對スル製品重量	備考
一回	一三	二五	二分七厘強	一九	日干十二時間
二回	一七	二七〇	三分五厘強	二四	同十二時間
三回	二一	四〇〇	三分三厘強	二〇	同十五時間

右表ヲ見ルニ第一第二回試験ハ淡水ニテ處理シタルニ製了歩留平均二分六厘強ナルニ鹽水處理ノ第三回分ハ三分三厘強ニシテ著シク成績ヲ認メタリ

尙乾燥ニ於テハ前者ニ比シ長時間ヲ要シ乾燥不良ナルヲ以テ十分ニ注意ヲ要スル處ナリ

製法 製造時季ハ秋季ノ外春季三四月ノ候ニシテ秋春雨ニ於ケル肉身ノ肥滿程度寧ろ春季ヲ良好トナス依テ兩時季ニ於ケル製造歩留ノ比較ニ就テハ次年度ニ於テ施行ノ豫定トス

一、住ノ江牡蠣干製試驗

一般當業者ハ一、二月頃迄ヲ主トシテ剥身トシテ生賣シ製造ヲナスモノ皆無ニシタリ三、四月ノ候生殖腺モ稍々發達シ剥身トシテノ價值減少シタルニ至リ製造ヲナスモノナレトモ製造ノ時季ニ依リ製品ノ品質或ハ製造歩留等ノ如何ヲ試験シ製造上ニ改良ヲ施スノ目的ヲ以テ左記ノ如ク各時季ニ於テ之レカ試験ヲ施行セリ

材料 大正五年十二月鴨神試験地ニ蒔付養成シタルモノニテ三年生貝ヲ使用ス其ノ大サ等左ノ如シ

試験順位	材料数量	全上重量	一樽個數	平均	備考
一月三十日	四樽	四九、五〇	一四、五	五、〇	一斗ノ容量平均五十五個
二月廿八日	五樽	六、七〇〇	一七、〇	四、九	同五十六個

製法 除殼剥身トナシ充分水切ヲ行ヒ少量ノ食鹽ヲ散布シ一夜浸漬シ肉質ヲ緊縮セシメ翌朝液汁ヲ去リ清水ニテ洗滌シ水分ハ除去シ釜ニ入レ常ニ攪拌シツ、充分ニ煮熟セシメ取上ケ再ヒ清水ニテ洗滌シ質上ニ並列シテ日乾シタリ

除殼ニハ十分熟練ト注意ヲ加フルニアラサレハ製品ノ外觀ヲ損シ製品歩留ニ影響スル事尠カラズ

剥身ニ付テノ調査

試験順位		數	重量	一升容量	一個平均重量	備考
一回	二回	一四〇	六、五〇	四七	五、五	一樽ヨリ生ヌル剝身量三升五合
一回	二回	一八〇	五、〇一六	四六	六、〇	同 三升六合
煮熱後ノ調査		數	重量	歩留	一升容量	一個平均重量
一回	二回	一一〇	三、四六五	五三強	四九	五、二
一回	二回	一四〇	四、五九八	九二弱	五八	五、五
乾燥後ノ調査		製品數量	全上重量	製造歩留	原料一升ニ對スル製品重量	備考
一回	二回	六〇	一、四三三	二二弱	三三	天候不良ノ爲メ乾燥長時間ヲ要シタリ
一回	二回	一一〇	二、〇六〇	四一強	四二	日干三十六時間

右成績ヲ見ルニ第二回ハ第一回ニ比シ製品歩留著シク良好ナリシハ材料ノ優良ナリシニ依ルト認ム即チ同一材料ヲ使用シタルニ依リ時期ニ依ル材料ノ良否ニ依リタル結果ナリト云フヘシ

委託試験

一、介藻(鮑)蕃殖委託試験

縣下松浦沿海ニ於ケル重要介藻類中鮑ヲ探定シ之レカ積極的ニ蕃殖方法ヲ講センカ爲メ先ツ其ノ成長度査定試験ヲ施行セン
トシ東松浦郡名古屋村加唐島漁業組合ニ委託シ同組合地先(俗稱オービヤノ鼻ヨリ後山川ニ至ル地先)面積貳拾參萬七千參百坪ヲ劃シ試験地トシ本年度ニ於テハ低圍裏ヨリ(俗稱ワサメデ)ノ鼻ニ至ル中間ニ於テ九月廿六日七日ノ兩日ニ於テ參貫百六拾參此ノ個數百九拾貳個ヲ又三月十八日ニ於テ貳貫五百七拾參參此ノ個數貳百七拾四個ヲ又三月自二十日廿四日ニ至ル間ニ於テ拾七貫五百參拾五勿此ノ個數壹千四百六拾壹個ヲ放養セリ其ノ後ニ於ケル成績狀況ハ調査ノ上報告スヘシ

一、鯉兒配付委託試験

本試験ノ目的ハ本場ヲ去ル遠隔郡部ノ養鯉希望者ノ爲メ當該郡内ニ於テ自ラ進テ優良ナル鯉兒ノ配付者タラントスルモノヲ獎勵シ以テ斯業ノ開發ヲ促サンカ爲メ前年度初メヲ實施シ本年ニ於テモ藤津及東西兩松浦ノ參郡ニ一ヶ所宛適地ヲ撰定シ六月上旬ヨリ中旬ニ迄リ藤津郡ニハ五十八萬粒東松浦三十五萬粒西松浦五十二萬粒即チ合計百四十五萬粒ヲ配付セリ
今其ノ郡別出願並ニ配付尾數ヲ表示スレハ左ノ如シ

郡別	體別	長	尾數
藤津郡	一寸以下ノモノ	一、一五〇	三、三〇〇尾
	一寸五分以上	一、三三〇	二、六〇〇
東松浦郡	一寸以下ノモノ	二、五〇〇	一〇、八〇〇
	一寸五分以上	九、九〇〇	二、三〇〇
西松浦郡	一寸以下ノモノ	四、三〇〇	一〇、八〇〇
	一寸五分以上	三、九四〇	二、五六〇
累計		一七、九五〇	四〇、六〇〇

郡別	體別	長	尾數
藤津郡	一寸以下ノモノ	一、一五〇	三、三〇〇尾
	一寸五分以上	一、三三〇	二、六〇〇
東松浦郡	一寸以下ノモノ	二、七〇〇	一三、五〇〇
	一寸五分以上	八〇〇	一、三〇〇
西松浦郡	一寸以下ノモノ	三、七〇	一〇、八〇〇
	一寸五分以上	二、〇〇〇	二、五六〇
累計		一四、八二〇	二〇、〇〇〇

本年ニ於テハ孵化率各郡トモ凡ソ七割ニシテ孵化狀況良好ナリシカ其後ノ天候極シテ不順ニシテ斃死スルモノ又ハ流逸セルモノ等アリ爲メニ配付尾數不良ナリキ

終